

令和 6 年
大門坂駐車場リニューアル基本計画策定業務委託
基本計画説明書

令和 7 年 8 月

株式会社 才才バ 和歌山営業所

O

O

1. 現況把握	1
1-1. 施設の概要	1
1-2. 自然的条件	1
1-3. 社会的条件	3
1-4. 人文的条件	5
2. 敷地分析	7
2-1. 現況における課題の整理	7
3. 計画内容の検討及び方針決定	9
3-1. 与条件の整理	9
3-2. 計画方針の検討と設定	20
3-3. ソーニングの検討と設定	21
3-4. 施設配置の検討と設定	23
4. 基本計画図	36
4-1. 基本計画図	36
4-2. イメージパース	38
5. 概算工事費の算出	39
5-1. 概算工事費	39
6. 関係機関協議	41
6-1. 那智勝浦観光機構	41
6-2. 熊野・那智ガイドの会	41
6-3. 土砂災害啓発センター	44
6-4. 熊野御坊南海バス	44

参考資料

1. 現況把握

1-1.施設の概要

対象地の現況については以下のとおりである。

表 対象地の現況

名称	大門坂駐車場		
位置	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町市野々 3 0 3 4 - 2		
面積	8,000 m ²		
施設	駐車場、観光案内所、トイレ、和歌山県土砂災害啓発センター		
駐車台数	バス	6 台	計 100 台
	乗用車	94 台 (うち身障者用 3 台)	
トイレ穴数	男子トイレ	小便器 3 穴、個室(洋式 1 穴・和式 1 穴)	計 5 穴
	女子トイレ	洋式 1 穴、和式 2 穴	計 3 穴
	多目的トイレ	洋式 1 穴	計 1 穴

1-2.自然的条件

(1) 位置・地勢

那智勝浦町は和歌山県の南東部に位置し、北は新宮市、西は串本町および古座川町、東は太地町と接し、熊野灘に面する。町域は東西約 19.8 km、南北約 19.2 km、総面積は 183.31 km²である。地形は、町の約 90 %を山地と丘陵地が占め、北部には紀伊山脈から東へ延びる那智連峰が広がる。この那智連峰を水源とする那智川と太田川は南東へ流れ、熊野灘に注いでいる。本町の平地のほとんどは、この両河川の流域に形成されており、土地は都市的利用や農業的利用が行われている。海岸線は延長約 48.15 km に及び、太古より隆起と沈下を繰り返してきたことで、砂浜や岩石海岸など多様な地形が形成され、典型的なリアス式海岸である。

大門坂駐車場は町の北西部に位置し、那智連峰の麓、那智川流域の海岸からおよそ 4 km の地点にある。

出典：那智勝浦町国土強靱化地域計画（2023）

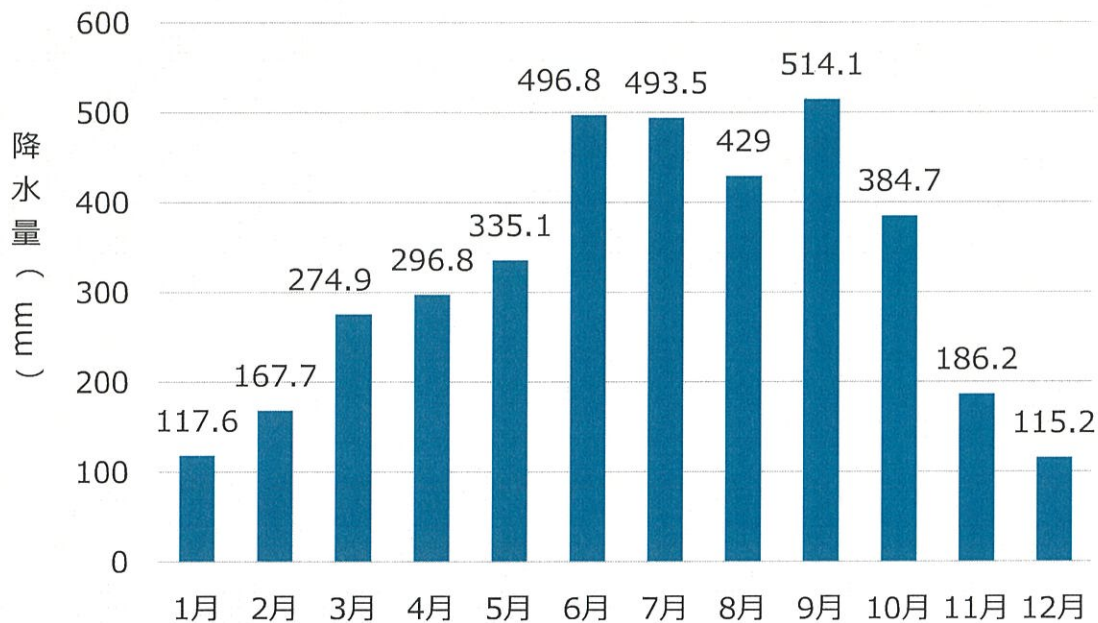


図 対象地の位置

(2) 気候

本町は、日本の気候区細分において南海気候区に属しており、温暖な気候である。最も寒い月でも、山間部を除いて気温は 6℃以上を示す。梅雨期や台風期には降水量が多く、月間降水量は 300mm 以上に達し、年間降水量は 2,000mm 以上で湿潤な気候区である。冬季の降水量は一般に少なく、12 月または 1 月が年間最小に当たり、最も多いのは 6 月の梅雨期と 9 月の台風期である。本町で年間降雨量が最も多い地域は山間部の色川地区で、平年降水量は 4,000mm に達し、これは全国的にも極めて多雨な地域である。

出典：那智勝浦町国土強靱化地域計画（2023）



出典：気象庁 HP

図 那智勝浦町色川における月別平年降水量

(3) 土地利用

那智川流域は、大部分を山林が占めており、天然広葉樹林の多い地域である。土地利用の割合は、山地が約 94%、宅地が約 5%、水田・畑が約 1%となっている。

出典：二級河川 那智川水系河川整備計画（2014）

(4) 自然景観

1) 那智の滝

那智の滝は、熊野那智大社の別宮である飛瀧神社の御神体として崇敬されている。国の名勝に指定されており、日本三名瀑の一つにも数えられる。滝の落差は 133 メートルで、毎秒約 1 トンの水が流れ落ちる迫力ある景観を呈している。滝幅は 13 メートルであり、水流は三筋に分かれて落下することから、「三筋の滝」とも呼ばれている。滝を正面から拝観できる「御滝拝所舞台」からは、滝の迫力を間近に体感することができ、訪れる者に深い印象を与えている。

出典：和歌山県公式観光サイト



写真 那智の滝

2) 那智原始林

那智原始林は那智大滝の東部に広がる約 32ha の照葉樹林で、温帯性と暖温帯性の動植物が入り混じる熊野地方の自然林の特徴を良く保っている。古くから熊野那智大社の神域として立入ることや樹木を伐採することが禁止されたため保存されてきた森林で、自然信仰に関連する文化的景観の典型である。出典：文化遺産オンライン



写真 那智原始林

3) 那智川

那智川は、和歌山県の南東部の那智勝浦町の北東部に位置しており、その源を那智山および烏帽山に発し、世界遺産に登録されている「紀伊山地の霊場と参詣道」のコアゾーンである那智の大滝を経て、南東に流下し、途中、左支川の長谷川、井谷川、右支川の大谷川等を合わせ、熊野灘の那智湾に注ぐ、流域面積 24.5 km²、幹川流路延長約 8.5 km の二級河川である。



写真 那智川

1-3.社会的条件

(1) 人口

那智勝浦町の人口は 13,628 人（2024 年 4 月 1 日現在・住民基本台帳）である。1960 年の町制発足時から人口減少が続いており、2010 年には過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎地域となった。年齢 3 区分別人口は、年少人口が 8.5%、生産年齢人口が 47.4%、老年人口が 44.1%と高齢化が著しい。大門坂駐車場のある那智地区の人口は 6,004 人であり、全体の約 44%を占めている。

出典：那智勝浦町統計資料編（2024）

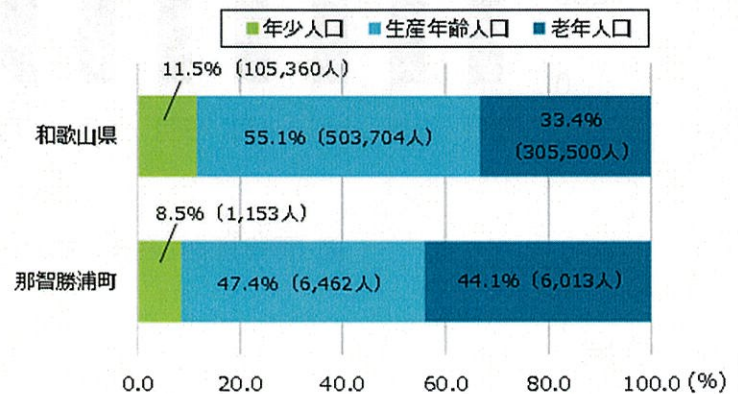


図 和歌山県と那智勝浦町の年齢 3 区分別人口

和歌山県は 2020 年国勢調査、那智勝浦町は住民基本台帳に基づく

(2) 観光客数

那智勝浦町の観光客数を右に示す。観光客総数のうち、日帰り客が約 70 %、宿泊客が約 30 %である。2023 年には 3 年ぶりに観光客総数 100 万人を回復したが、コロナ禍以前の約 140 万人の水準には戻っていない。

出典：和歌山県観光客動態調査報告書(2018-2023)



図 那智勝浦町の観光客数推移

(3) 利用状況

大門坂観光案内所の利用者数は、2024 年度で約 1.9 万人である。2023 年度と比較すると、日本人は約 1,000 人減少し、外国人が約 3,000 人増加している。なお、これは大門坂観光案内所を訪問した来客人数であるため、大門坂駐車場にはさらに多くの利用者がいると考えられる。

バス駐車場の利用台数は、2023 年度で 669 台、2024 年度で 821 台である。

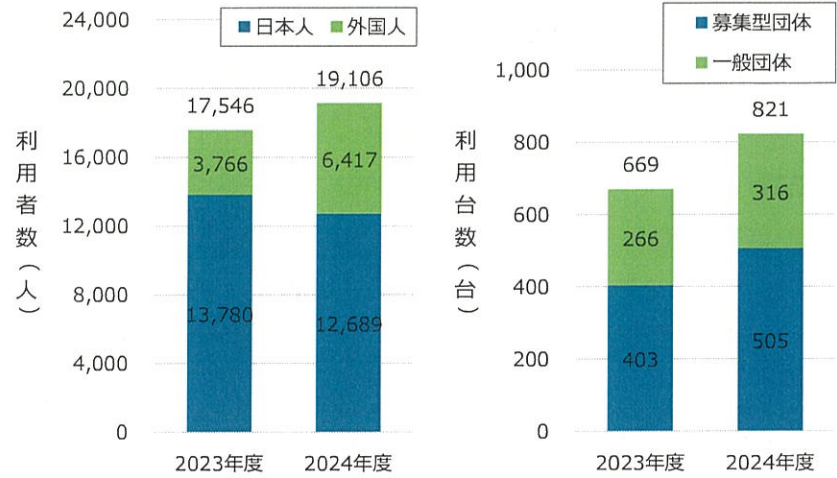


図 大門坂観光案内所利用者数とバス駐車場利用台数

出典：那智勝浦観光機構

(4) アクセス

1) 公共交通機関

大門坂駐車場へは、熊野御坊南海バス那智山線でアクセスできる。バス停は、大門坂駐車場から徒歩 1 分の位置に大門坂バス停、徒歩 2 分の位置に二の瀬橋バス停がある。所要時間は、那智勝浦駅からは約 20 分、那智山からは約 7 分である。

路線名	年間輸送人員	行先	本数
那智山線	約 5.9 万人 (2022 年度)	那智山方面	16～17 本/日
		那智勝浦駅方面	16～18 本/日

出典：那智勝浦町地域公共交通計画（2024）、熊野御坊南海バス HP



図 大門坂駐車場周辺のバス停位置

2) 自家用車

紀勢自動車道那智勝浦インターから大門坂駐車場までは、県道 43 号および 46 号を通り約 5 km、所要時間は 10 分弱である。

(5) 防災

大門坂駐車場は一部が土砂災害警戒区域（土石流）に指定されている。また、周辺では、敷地東側的那智川沿いに最大 3m 未満の浸水想定区域、敷地西側および南側の山沿いに土砂災害特別警戒区域（急傾斜地崩壊）、土砂災害警戒区域（土石流）、土砂災害警戒区域（急傾斜地崩壊）が指定されている。

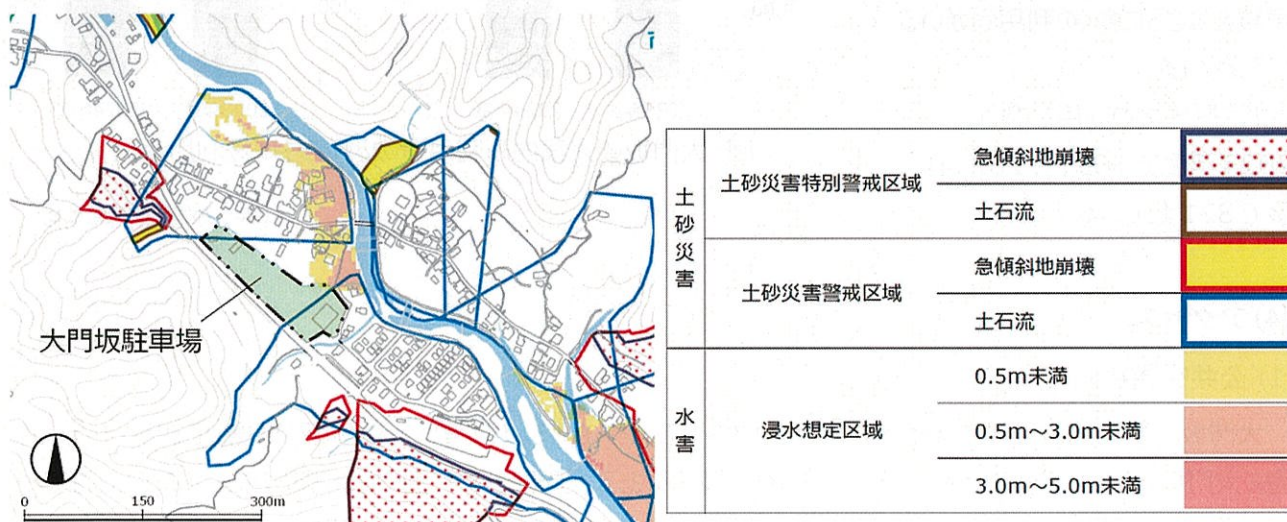


図 大門坂駐車場周辺のハザードマップ

出典：那智勝浦町土砂災害・洪水ハザードマップ令和 2 年度保存版（2020）

1-4. 人文的条件

(1) 歴史・文化・観光資源

・大門坂

古くから多くの参詣者を迎えてきた熊野古道の、当時の趣を最も色濃く残す場所のひとつ。全長約 500m、高低差約 100m の苔むした石畳の道は、樹齢 800 年を超える老杉に囲まれ、神秘的な雰囲気包まれている。道中には、対になってそびえる「夫婦杉」や、かつての関所跡、霊場への入り口とされた「振ヶ瀬橋（ふりがせばし）」など、歴史を感じる名所が点在する。

（出典：和歌山県公式観光サイト）



写真 大門坂

・熊野那智大社

全国 4000 社の熊野神社の総本社で、熊野速玉大社・熊野本宮大社とともに熊野三山と呼ばれる。ユネスコの世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』にも登録されており、御本殿域は国指定重要文化財となっている。古くから熊野の神々は那智の滝本に祀られていたが、山の中腹に社殿をつくり、熊野の神々と滝の神様を迎えたことから始まる神社である。

（出典：和歌山県公式観光サイト）



写真 熊野那智大社

・那智山青岸渡寺

日本最古の巡礼路である西国三十三所観音霊場の第一番札所として知られる。熊野那智大社とともに神仏習合の霊場として栄えた天台宗の寺院で、2004年には世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産に指定された。天正18年（1590年）に豊臣秀吉が再建した本堂（如意輪堂）は、天然木の質感を活かした「素木造り」で、当時の建築技術を色濃く残している。

（出典：和歌山県公式観光サイト）



写真 那智山青岸渡寺

(2) 行事・イベント

・那智の扇祭り

熊野那智大社の例大祭で毎年7月14日の昼間に行われる。山上の御本社より十二体の扇神輿に神霊を遷して渡御をなし、御瀧信仰の根本たる水の神意を発揚する神事が「那智の扇祭り」で、御瀧の参道を大松明の炎で浄める様の勇壮さから「那智の火祭り」とも称される。当日は、ユネスコ無形文化遺産に登録された那智田楽が奉納される。

（出典：熊野那智大社 HP）



写真 御火行事

・那智勝浦町花火大会

快水浴場百選の特選にも選ばれているブルービーチ那智にて開催される町民手作りの花火大会。追善供養の花火や、住民の人々からの応援メッセージ寄付、当日アナウンスなどがあり、ビーチには、夜店の出店もある。

（出典：那智勝浦町花火大会 HP）



写真 那智勝浦町花火大会

2. 敷地分析

2-1.現況における課題の整理

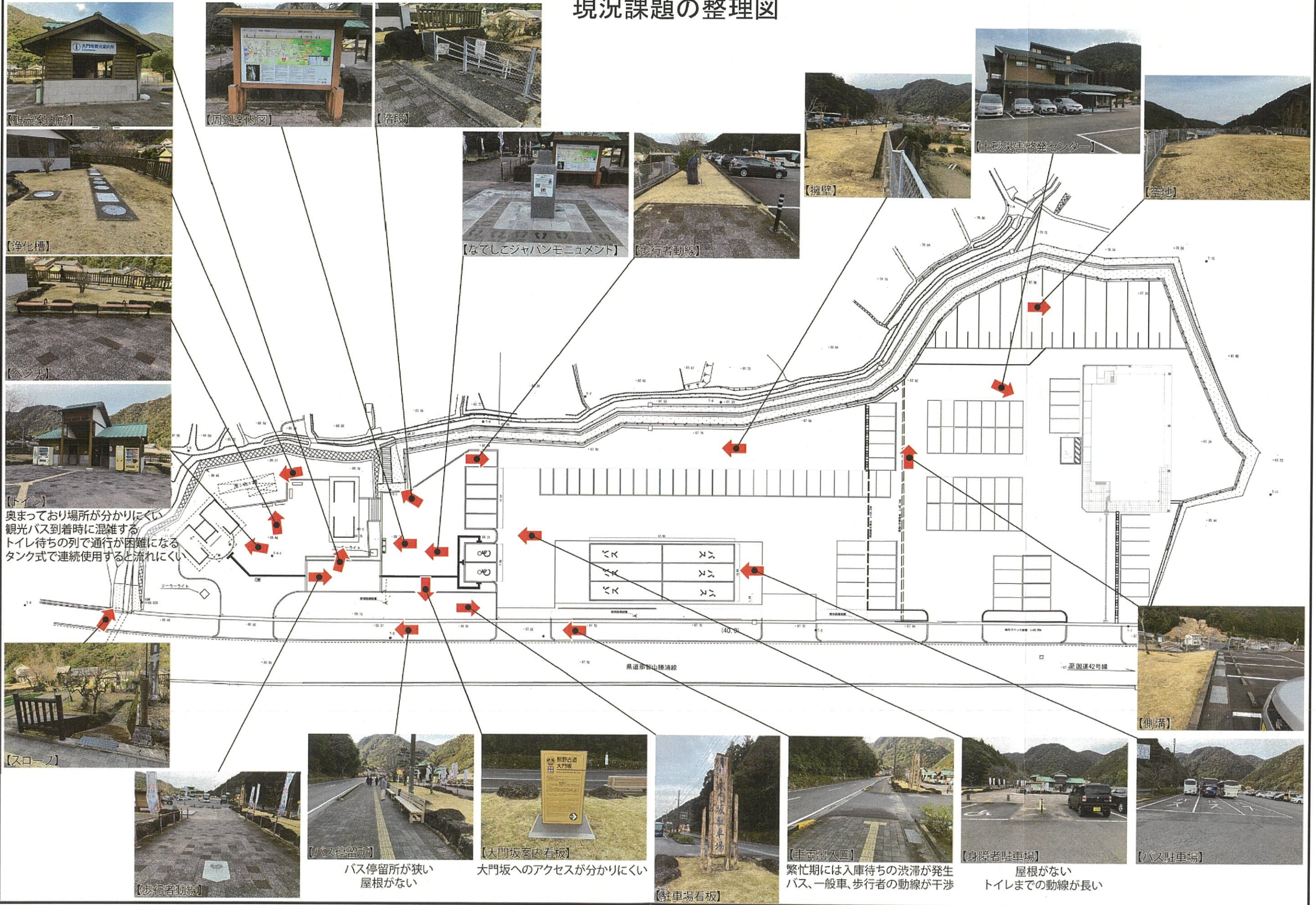
現況における課題の把握のため、下記の通りヒアリングを実施した。

実施日	対象者	把握した課題
2025/2/21	那智勝浦町	・観光バス到着時にトイレが混雑する。 ・駐車台数が不足している。 ・トイレ、観光案内所、バス停留所、駐車場が離れている。 ・バス、一般車、歩行者動線が干渉している。 ・バス停留所が狭い。 ・バス停留所に屋根がない。
2025/3/25	那智勝浦観光機構	・駐車場から大門坂へのアクセスが分かりにくい。 ・繁忙期には駐車台数が不足し、前面道路で渋滞が発生する。 ・観光バス到着時にトイレが混雑する。 ・タンク式のトイレであり、連続で利用すると流れにくくなる。
2025/6/10	熊野・那智ガイドの会	・バイクで訪れる人が一定数いるため、二輪専用駐車場が必要である。 ・トイレ待ちの列により、歩行者の通行が困難となるときがある。 ・トイレの場所が奥まっております分かりにくい。 ・身障者駐車場からトイレまでの動線が長い。 ・身障者駐車場に屋根がない。 ・普通車の入出庫の動線が煩雑で渋滞の原因となっている。

把握した課題を整理すると下記になる。

施設全体のレイアウトに関する課題	・各施設が離れており分かりにくい ・バス、一般車、歩行者の動線が干渉している
駐車場に関する課題	・駐車台数が不足している ・二輪駐輪場が必要 ・身障者駐車場に屋根がない ・入出庫動線が煩雑
トイレに関する課題	・女性用トイレが混雑する ・タンク式のため流れにくくなる場合がある
バス停留所に関する課題	・狭い ・屋根がない
大門坂へのアクセスに関する課題	・駐車場から大門坂へのアクセスが分かりにくい

現況課題の整理図



O

O

3. 計画内容の検討及び方針決定

3-1. 与条件の整理

上位関連計画及びヒアリング内容から、与条件の整理を行った。

(1) 上位関連計画

上位関連計画における、大門坂駐車場の関連項目は以下のとおりである。

上位関連計画	関連項目の要約
第 10 次那智勝浦町 長期総合計画	・交通アクセスの整備や公共交通の維持を行う。 ・観光業の振興により、地域経済の活性化を目指す。
那智勝浦町都市計画 マスタープラン 2022～2031	・大門坂駐車場は地域間連携軸と観光拠点の境界に位置する。 ・良好な景観の維持・保全を図る。 ・観光拠点にふさわしい交通環境の整備を図る。
那智勝浦町 地域公共交通計画	・熊野御坊南海バス那智山線の活性化を行う。 ・停留所における待合環境を確保する。(待合室、上屋、ベンチ、情報案内等)
那智勝浦町 公共施設等総合管理計画	・大門坂休憩施設は利用者が増加し、対応しきれていない現状がある。 ・大門坂休憩施設は必要な施設と認識し、施設の配置検討を行う。
和歌山県景観計画	・文化的景観を損なうことのないよう周囲との景観の調和を図る。

1) 第 10 次那智勝浦町長期総合計画

第 10 次那智勝浦町長期総合計画の概要は以下のとおりである。

策定年月	2021 年 3 月（令和 3 年 3 月）	
計画期間	2021 年度～2025 年度（令和 3 年度～令和 7 年度）	
計画体系	まちの将来像	着実にわがらで創る笑顔のまち 那智勝浦
	計画を貫く視点	住んでよかった・住み続けたい・住んでみたいまちの実現 （１）防災・減災対策の推進 （２）福祉施策の充実 （３）観光による活性化
	基本指針	I. 災害に強いまちづくり II. 快適で安心して暮らせるまちづくり III. 活気ある産業で雇用が生まれるまちづくり IV. 福祉が充実したまちづくり V. 豊かな心と地域文化を大切にするまちづくり VI. みんなの知恵と力を結集したまちづくり

第 10 次那智勝浦町長期総合計画において、大門坂駐車場に関連する項目は以下のとおりである。

序論：計画を貫く視点
(3) 観光による活性化
観光振興は、観光に係る飲食業・宿泊業・小売業・卸売業や農業・水産業にも派生する裾野の広い雇用に繋がることから、本町の基幹産業を支える取組として欠かすことができません。本町では「(一社) 那智勝浦観光機構」を設立し、令和 2 (2020) 年 4 月からマーケティングとプロモーションの専門人材を配置し業務を開

始しています。これにより、国内外からの人の流れを戦略的につくり、観光による地方創生を実現することを目指しますが、町民や関係者の知恵も結集しながら、本町の観光振興に着実に取り組んでいきます。また、都市部にはない本町独自の魅力（自然環境、豊かな農産物・海産物、世界遺産や文化財等）による幸福度の高い生活スタイルを発信することで、移住・定住に繋げ、農林水産業の後継者確保・育成にも取り組んでいきます。

基本計画：II. 快適で安心して暮らせるまちづくり

【交通体系の整備（一部抜粋）】

■ 現状

- ・近年、観光等で本町を訪れる方の多くは自家用車や観光バスを利用されるため、基幹アクセス道路の整備に努めています。
- ・町内バス路線は民間 2 路線・町営 5 路線であり、町民の日常の移動手段の確保に努めています。

■ 課題

- ・国道及び県道について、自家用車等を利用する町民や町外・県外からの観光客等が利用しやすい道路の整備や、主要道路沿いを安心して歩ける歩道の整備が求められています。
- ・町内バス路線の維持のため、利用者の確保に向けた取組を進める必要があります。

■ 施策により目指す方向性

- ・生活道路・公共交通が整備され、日常の移動が安全かつスムーズなまち

■ 実施する主な施策

（４）公共交通の確保

- ・町民の生活の利便性向上と移動手段の確保のため、町内のバス路線の維持に努めます。
- ・運行本数の維持・増便等、鉄道の利便性向上のための要望を行います。

基本計画：III. 活気ある産業で雇用が生まれるまちづくり

【観光業の振興（一部抜粋）】

■ 現状

- ・観光業は本町の柱となる重要な産業であるため、観光による地域づくりの舵取りを担う「（一社）那智勝浦観光機構」と協働する等、積極的な観光振興に取り組んでいます。
- ・本町の自然を観光資源として有効に生かすため、誘客や情報発信に取り組んでいます。
- ・外国人を含む観光客の利便性向上のため、観光案内や言語の障壁の解消に努めています。
- ・観光と関係の深い施設や直売所、水産業や飲食業等との連携により、にぎわいと魅力の創出に努めています。

■ 課題

- ・近年はインバウンドの増加により観光客は増加傾向にありましたが、日帰り客が多く宿泊客は減少していることが新型コロナウイルス感染症流行前の課題でした。
- ・今後は町ぐるみで新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、国内旅行の宿泊客の取り込みや豊かな自然環境や世界遺産・温泉・生まぐろ等を生かした観光誘客の推進により、観光業の活気と経済的な潤いを取り戻す必要があります。

■ 施策により目指す方向性

- ・関係機関と連携し、積極的に観光資源の活用や本町の魅力発信等を行うまち
- ・多くの観光客が豊かな自然や人々の温かさを感じられ、何度でも訪れたいまち

■ 実施する主な施策

（１）「稼いで潤す」観光地域づくりの推進

- ・（一社）那智勝浦観光機構が中心となって観光戦略を策定し、行政との役割を明確化したうえで、効果的

な誘客・旅行消費拡大・Wi-Fi 環境を始めとする受け入れ環境の整備等、「稼いで潤す」観光地域づくりを推進します。

(3) 観光資源の活用

- ・世界遺産・温泉・生まぐろを始めとする本町ならではの観光資源を最大限に有効活用することにより、観光業の活性化に努めます。
- ・熊野古道の要所に多言語解説文やルート案内図、道標整備に取り組みます。

2) 那智勝浦町都市計画マスタープラン 2022～2031

那智勝浦町都市計画マスタープラン 2022～2031 の概要は以下のとおりである。

策定年月	2022 年 3 月（令和 4 年 3 月）	
目標年次	2031 年度（令和 13 年度）	
目指す都市の将来像	わがらで創り、つなぐ 人と自然と歴史が織りなす魅力のまち 那智勝浦	
基本方針	I.	災害に強い安全に暮らせるまちづくり
	II.	快適で安心して暮らせるまちづくり
	III.	那智勝浦の魅力を発揮したにぎわいのあるまちづくり
	IV.	海・山・川と共生するまちづくり
	V.	効率的で持続可能なまちづくり
	VI.	わがらで創り、つなぐまちづくり

那智勝浦町都市計画マスタープランにおいて、大門坂駐車場に関連する項目は以下のとおりである。

第 2 章都市づくりの目標：4. 将来都市構造

大門坂駐車場は、＜拠点＞は観光拠点、＜軸＞は地域間連携軸、＜ゾーン＞は農地・集落地ゾーンに位置付けられている。

＜拠点＞：観光拠点

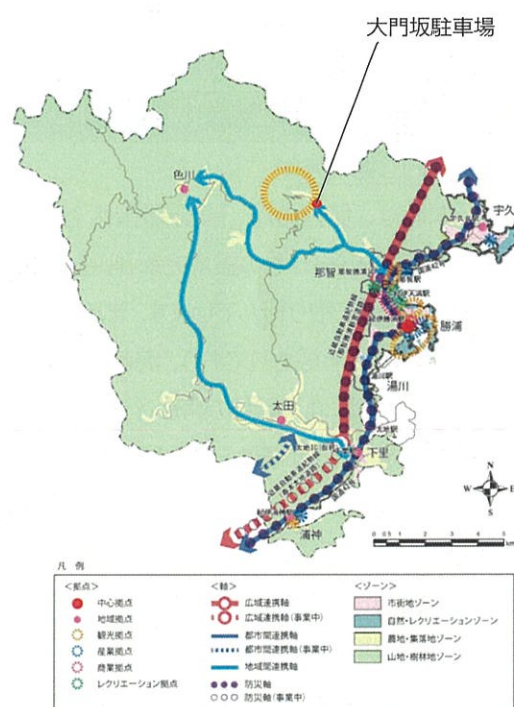
勝浦港周辺の勝浦温泉の旅館群や熊野那智大社等の世界遺産の構成資産が集積するエリア、那智山観光の玄関口である那智駅周辺、旧浦神小学校周辺を「観光拠点」に位置づけ、観光誘客につながる魅力と利便性の向上を図ります。

＜軸＞：地域間連携軸

本町の中心拠点や地域拠点をはじめとする各拠点間をつなぐ県道那智山勝浦線、県道那智勝浦古座川線、県道那智勝浦本宮線を「地域間連携軸」と位置づけ、地域間の円滑な移動と連携強化を図ります。

＜ゾーン＞：農地・集落地ゾーン

地域拠点やその周辺の農地や集落が分布するエリアを「農地・集落地ゾーン」に位置づけ、農業的土地利用の維持を図るとともに、農業や漁業の維持・振興を行いながら従事者の生活の維持を図ります。



出典：那智勝浦町都市計画マスタープラン 2022～2031

図 将来都市構造

第3章全体構想：都市施設整備の方針

■ 基本的な考え方

道路、公共交通、公園、供給処理施設等は、日常時だけでなく、災害時においても重要な役割を担います。人口減少により税収が減少し、整備に係る財源が限られる中で、地域の実情を踏まえつつ、子どもや高齢者等の利用にも配慮し、選択と集中によりこれらの施設の維持・充実を図ります。また、情報通信や移動等の技術の活用は、本町の課題解決や活性化にもつながることから、これらの技術の発展を見据えて導入等を検討していきます。道路や河川、漁港等は、国や県が所管する事業も多いことから、国や県とも連携しながら、整備を進めていきます。

■ 道路・交通の整備方針

1) 道路の整備方針

③ 地域幹線道路

- ・本町の中心拠点や地域拠点をはじめとする各拠点間をつなぐ県道那智山勝浦線、県道那智勝浦古座川線、県道那智勝浦本宮線等の主要な道路については、県と連携しながら、町民の生活の利便性の向上と住み続けられる地域づくりに配慮するとともに、優先度を考慮した整備を促進します。
- ・歩行者や自転車が日常生活において安心・安全に利用できるよう、安全性・利便性の向上につながる環境整備に努めます。

2) 公共交通の整備方針

② バス

- ・町民の生活の利便性の向上と移動手段の確保のため、民間事業者とも連携し、さまざまな移動形態を用いた公共交通網の充実に努めます。
- ・高齢者の福祉の増進や公共交通の利用促進の観点から、高齢者を対象とした割引制度等について検討を行います。

■ その他都市施設

- ・公共施設については、「那智勝浦町公共施設等総合管理計画」に基づき、個別施設計画の策定を進めるとともに、公共施設の管理運営の効率化と適正化を進めます。

第3章全体構想：自然環境及び景観の保全・形成の方針

■ 基本的な考え方

本町は、那智の滝、熊野那智大社、那智山青岸渡寺、補陀洛山寺とこれらをつなぐ熊野古道等を構成資産とする「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、周辺の森林等とあわせて一体的な自然環境の保全・継承に取り組んでいます。また、沿岸部には入り組んだ地形をみせる半島や海岸線が連なる等、美しい海辺の景観が形成されており、海と山の豊かな自然環境は吉野熊野国立公園に指定されています。これらの自然・歴史資源は、本町の誇り（シビックプライド）の礎であり、本町の産業とも深く関わっていることから、自然の恵みを継続して受け続けられるように、自然・歴史環境とともに、そこに生息する動植物を含めた生態系の保全に取り組んでいきます。あわせて、本町の自然・歴史環境や産業が一体となって醸し出される那智勝浦町の特色ある景観を保全・形成します。

■ 自然環境・景観の保全・形成の方針

① 自然環境の保全と活用

- ・那智原始林の一带は、特に優れた自然植生を有しています。また、古代より紀伊山地の険しい地形と山岳信仰等とともにある景観地として、熊野古道や霊場を中心に世界遺産に登録されており、この貴重かつ豊かな自然環境の保護・保全を進めます。また、世界中から多くの来訪者を迎える観光拠点となる地域でもある

ことから、自然環境との調和に配慮した観光振興を図ります。

②景観の保全・形成

- ・本町は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部に含まれており、那智原始林を背に落水する那智の滝や、熊野那智大社、那智山青岸渡寺等の霊場とそこに通じる熊野古道を中心に、長い時間をかけて培われ育まれてきた自然と歴史が調和した貴重な景観が継承されています。また、本町の中心部の海と温泉旅館が織りなす風情も本町を代表する景観の一つであり、これらの価値や景観上の特徴を地域の魅力として町民や観光客と共有し、次代に継承しながら、本町の誇り（シビックプライド）を醸成する景観まちづくりの取り組みを推進します。
- ・那智の滝、沿岸部の紀の松島、熊野灘に浮かぶ島々等の特徴的な地形・地質による景勝地を多く有しており、吉野熊野国立公園として美しい自然景観の保全を図るとともに、魅力ある景観を楽しむ場として活用を図ります。
- ・本町では、平成 14 年に「那智勝浦町歴史文化的景観保全条例」を定め、世界遺産をはじめとした歴史資産の恒久的な保護と周辺景観の維持に取り組んでいます。県では平成 20 年に「和歌山県景観計画」を策定し、良好な景観を形成する上で特に重要であると認められる地域を特定景観形成地域として指定しており、本町の一部が平成 21 年に指定された熊野参詣道（中辺路）と、平成 28 年に指定された熊野参詣道（大辺路）に含まれています。県と連携を図りながら、景観を保全するとともに、地域の特性を活かしたより良い景観の形成を進めます。

第 4 章地域別構想：那智・勝浦地域

大門坂駐車場が位置する那智・勝浦地域の将来像と目標は以下である。

将来像	海と山、那智の歴史に導かれた新たな文化を生み出すにぎわいのまち
地域づくりの目標	◆都市機能の集積・強化による、利便性の高い中心市街地の形成 ◆本町の顔となる魅力の創出と向上による、賑わいのある快適な市街地環境の形成 ◆熊野灘の海から熊野那智大社等の山まで多様な魅力を活かした地域活力の創出

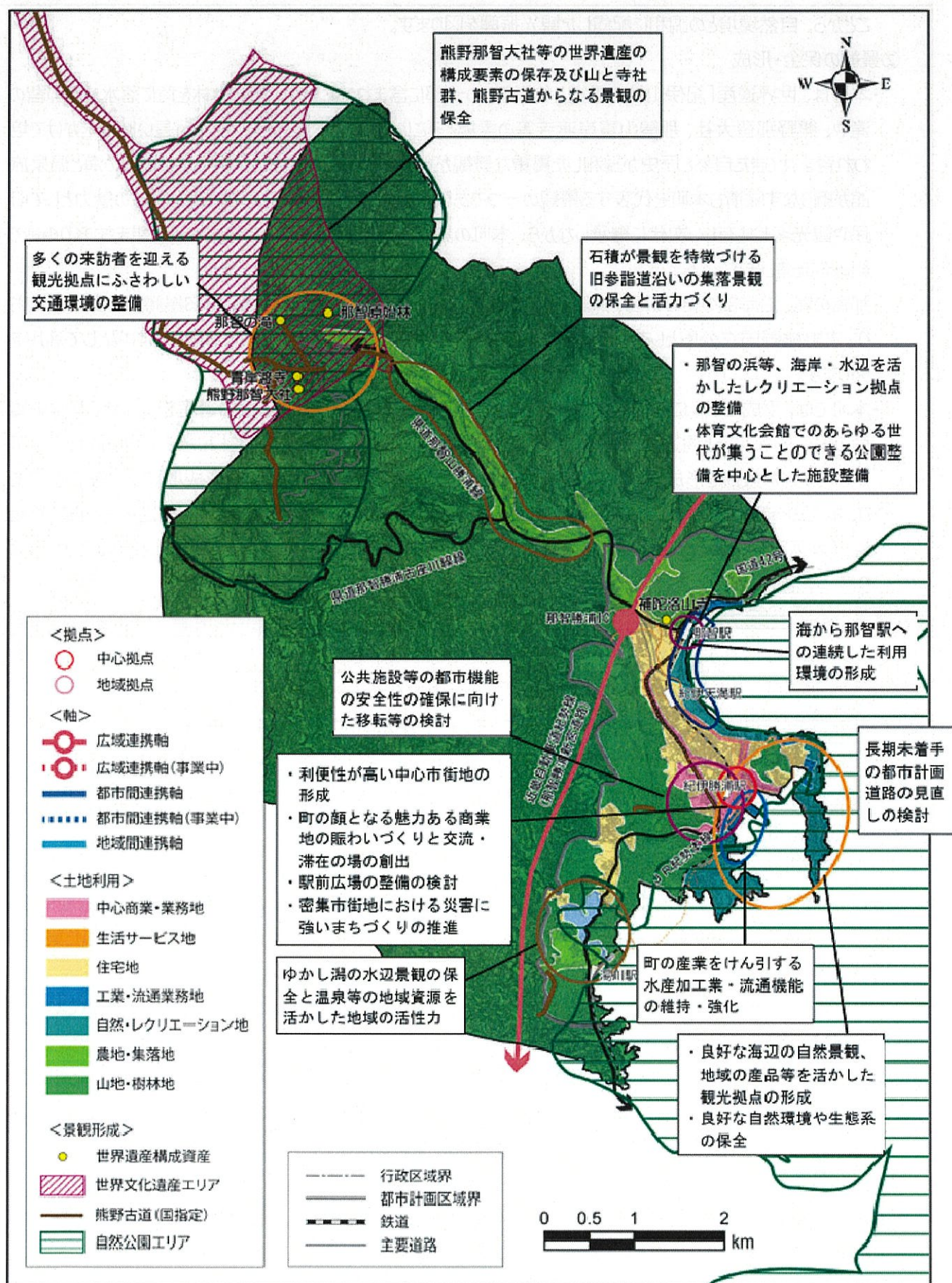
地域づくりの方針として、以下が示されている。

■土地利用・都市環境・景観形成

- ・市野々や井関等のかつての熊野参詣道沿いでは、背後に広がる緑豊かな山々のなか、緩やかな傾斜地にある石積が集落景観を特徴づけており、良好な集落環境の維持・保全を図るとともに、地域資源を活かした集落の活力づくりを目指します。
- ・本町の基幹産業である観光業や水産業は、海や背後の山、河川の恩恵を受けて成り立っている産業であり、これらの自然環境やそこに生息する動植物を含めた生態系の保全を図ります。
- ・地域内の那智の滝や熊野那智大社、那智山青岸渡寺、補陀洛山寺とこれらをつなぐ熊野古道は、紀伊半島における豊かな自然環境とそこでの人々の営みとともにある歴史・文化が育んできた貴重な資産です。これらの資産については、吉野熊野国立公園や和歌山県景観計画等の規制誘導により適切に保全を図ります。

■道路・交通環境

- ・本地域を縦貫する骨格を担う国道 42 号や本町の各拠点間をつなぐ県道那智山勝浦線、県道那智勝浦古座川線については、国・県と連携しながら、町民や観光客等が安心・安全に利用できるよう、歩道整備や改良工事等を促進します。
- ・熊野那智大社や那智の滝周辺では、多くの来訪者を迎える観光拠点にふさわしい、交通環境（バスネットワーク、駐車場等）の維持・集約や整備を図ります。



出典：那智勝浦町都市計画マスタープラン 2022～2031

図 那智・勝浦地域の方針

3) 那智勝浦町地域公共交通計画

那智勝浦町地域公共交通計画の概要は以下のとおりである。

策定年月	2024 年 3 月（令和 6 年 3 月）
計画期間	2028 年度（令和 10 年度）
基本理念	まちと人を結ぶ地域公共交通で「住みたい・また来たい」那智勝浦へ ～わがらの地域公共交通はわがらで創る～
基本方針	A. 国土軸としての JR 紀勢本線等の広域交通の活性化 B. 「住みたい・また来たい」町内ネットワークの再構築 C. まちづくりや観光施策と連携した地域公共交通の改善 D. 「わがら」で支える共創体制再構築

那智勝浦町地域公共交通計画において、大門坂駐車場に関連する項目は以下のとおりである。

B. 「住みたい・また来たい」町内ネットワークの再構築
【町内のバス・タクシーの活性化】
■ 熊野御坊南海バス那智山線の活性化
・観光振興とあわせた那智山線の利用促進
・生活利用の促進（市野々・宇久井小学校や高校等への通学への活用、町営バスとあわせた運賃割引等）
C. まちづくりや観光施策と連携した地域公共交通の改善
【まちづくりや観光施策と連携した地域公共交通の改善】
■ 交通結節点の拠点機能強化
・主要駅・停留所における待合環境確保（待合室、上屋、ベンチ、情報案内等）

4) 那智勝浦町公共施設等総合管理計画

那智勝浦町公共施設等総合管理計画の概要は以下のとおりである。

策定年月	2016 年 3 月（平成 28 年 3 月）
改訂年月	2024 年 3 月（令和 6 年 3 月）
計画期間	2016 年度～2035 年度（平成 28 年度～令和 17 年度）
基本原則	1. 施設総量の適正化 2. 長寿命化の推進 3. 民間活力の導入
管理方針	1. 点検・診断等の実施 2. 維持管理・修繕・更新等の実施 3. 安全確保の実施 4. 耐震化の実施 5. 長寿命化の実施 6. ユニバーサルデザイン化の推進 7. 脱炭素化の推進 8. 統合や廃止等の推進 9. 総合的かつ計画的な管理を実現するための体制の構築

那智勝浦町公共施設等総合管理計画において、大門坂駐車場に関連する項目は以下のとおりである。

公共施設における施設類型ごとの管理に関する基本方針

(3) スポーツ・レクリエーション系施設

■施設の概要

通し番号	施設名称	耐震化	取得年度	経過年数	延床面積
18-19	大門坂休憩施設	新耐震	2005	18	92.0

■施設の現状及び今後の方針

	スポーツ・レクリエーション系施設の現状及び基本的な考え方
施設の現状	・大門坂休憩施設については、2022年12月に観光案内所を設け、観光客のまちなか観光や宿泊、交通のアクセス案内をサポートしています。利用者が増加してきているため、対応しきれていない現状があります。
今後の方針	・大門坂休憩施設は、観光客にとって必要な施設と認識しております。トイレを含め施設の配置からの検討を行います。

5) 和歌山県景観計画

大門坂駐車場は、和歌山県景観計画による特定景観形成地域のその他地域に指定されている。

熊野参詣道（中辺路）特定景観形成地域

■熊野参詣道（中辺路）

熊野参詣道（中辺路）及びその周辺地域は、幾重の歴史を人々の暮らしとともに積み重ねてきた場所である。世界遺産に登録されたことによってその価値は広く内外に知れわたり、多くの来訪者の目に触れる場所となり、和歌山県を代表する景観の一つである。

■熊野参詣道（中辺路）特定景観形成地域の指定

当地域が有する景観の価値が損なわれないよう以下の範囲を基本として地域を設定しました。

- ・世界遺産のコアゾーン、バッファゾーン
- ・世界遺産を結ぶ歩行者動線周辺、また、熊野の地へといざなうアクセスルート周辺
- ・熊野参詣道（中辺路）からの可視領域

現況から見る景観の類型化

熊野参詣道（中辺路）の景観特性を4つに分類し、良好な景観を誘導します。

①石畳が続く山道や沿道に残る王子などの沿道景観

文化財的価値を持つ古道及び沿道景観を保全する

②熊野古道から望む景観

古道と一体となり文化的景観としての価値を持つ眺望景観を保全する

③主要なアクセスルートの沿道景観

熊野の地へいざなうアクセスルートにふさわしい景観形成を図る

④固有の景観を有する地域内の集落景観

暮らしの営みによってつくられた集落景観を保全する

きめ細やかな区域設定による届出制度の実施

景観特性に応じた区域設定により、きめ細やかな届出制度を実施します。

①バッファゾーン（世界遺産緩衝地帯）

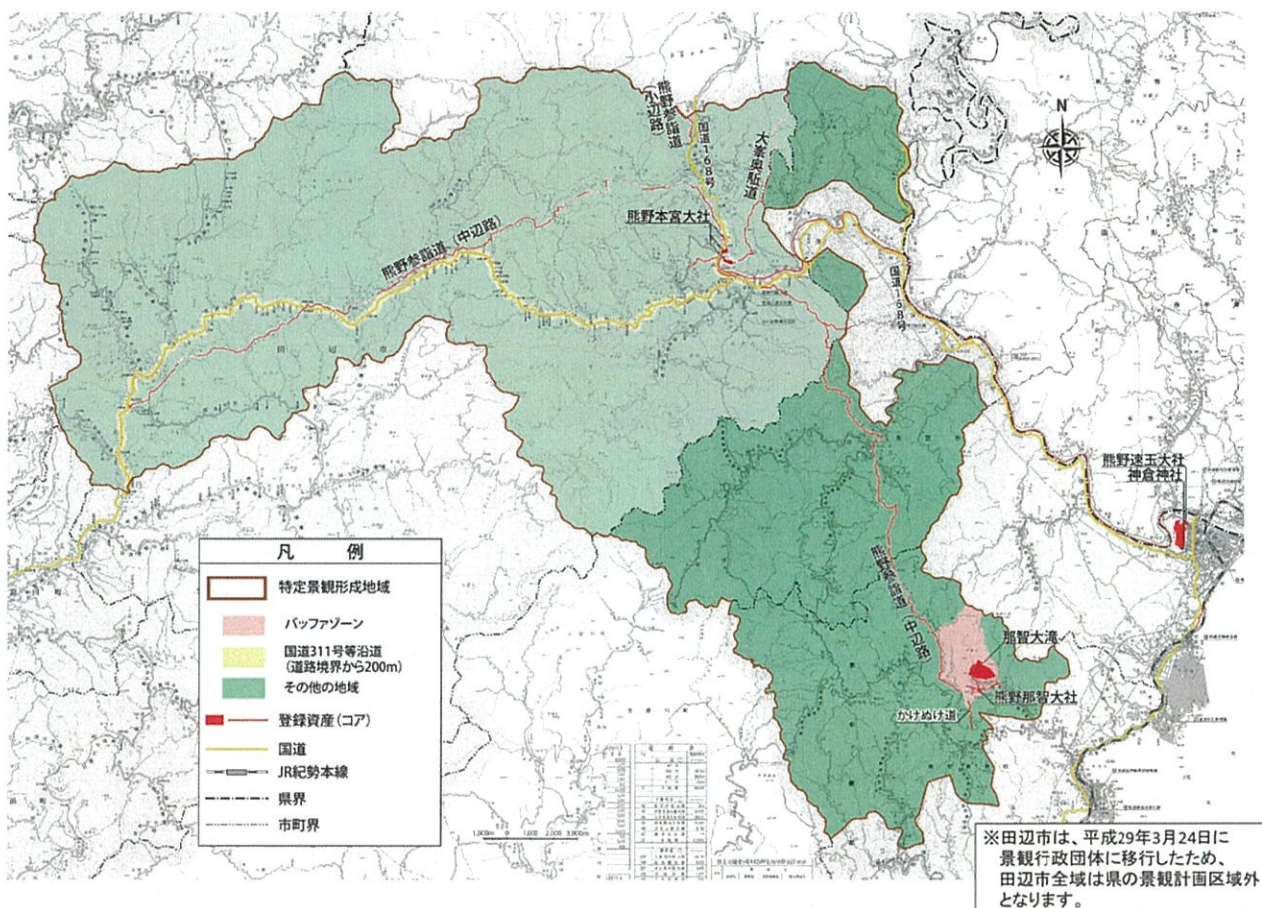
- ・古道等世界遺産登録資産と一体的な空間を構成する文化的価値の高い貴重な景観として極力保全します
- ・市町の世界遺産条例に準じた届出制度を実施します

②国道 168 号沿道（境界から 200m）

- ・熊野の地へいざなうアクセスルートとして、地域が持つ景観の価値を損なうことのないよう周囲の景観との調和を図ります
- ・外観の基調色について、色彩に関する基準を設け、周囲の景観との調和を図ります

③その他の地域

- ・古道から眺望できる周囲の景観が一体となって文化的景観を形成していることに留意し、その景観を損なうことのないよう周囲との景観の調和を図ります
- ・熊野参詣道（中辺路）の眺望点から見たときの外周囲山稜のスカイラインの眺望を保全します



出典：和歌山県景観計画

図 熊野参詣道（中辺路）特定景観形成地域

(2) ヒアリング結果

関係者の意向把握のため、2025 年 2 月から 6 月にかけてヒアリングを行った。ヒアリング実施日、対象者及び把握した内容を以下に示す。

実施日	対象者	ハード整備に係る内容
2025/2/21	那智勝浦町	・敷地に接する県道には、歩道内に電気及び水道管が通っている。 ・観光バス到着時にトイレが混雑する。 ・駐車台数を増やしたい。 ・トイレ、観光案内所、バス停留所、駐車場を近づけた配置としたい。 ・バス用駐車場の位置の制限はない。 ・観光案内所は、イベントスペース、多目的室、会議室、休憩所等の機能を導入したいと考えている。（規模は 100 m²程度） ・観光案内所は近隣住民（5 世帯程度）の緊急避難場所となることも考慮すること。 ・なでしこジャパン記念モニュメントは敷地外への移設、ポケモンマンホール（設備的機能無し）および記念植樹は敷地内の移設とすること。 ・駐車場マスのサイズ等は福まち条例に合わせること。
2025/3/25	那智勝浦町	・観光案内所とトイレは同一建物内であっても区画分離が必要。（観光案内所の施錠のため） ・バス停留所は同時発着に備えて幅員の確保が必要。
2025/3/25	那智勝浦観光機構	・観光案内所に水道があると良い。 ・大門坂への案内看板があると良い。 ・倉庫・物置・コインロッカーの設置を希望。 ・観光案内所には金庫があるため、営業時間外は施錠する必要がある。 ・建物内の休憩スペースは、長居する人がでくるため好ましくない。 ・バス駐車場は 6 台で十分である。 ・女性トイレは混雑時に待機列が発生する。 ・タンク式のトイレであり、連続で利用すると流れにくくなる。 ・和式便器を 1 基残すほうが良いのではないか。
2025/6/2	那智勝浦町	・既存樹木のみ残し、補植、新植は行わない。 ・大屋根内に歩行者横断箇所を設け、視覚的に分かりやすくすること。 ・土砂災害啓発センター前に視覚障害者用誘導ブロックを設置すること。 ・普通車入口周辺にラバーポールを設置すること。 ・観光バスの進入軌跡について、那智山側からの進入も想定すること。 ・夜間利用が少ないためハイボール灯は不要である。（照明を設置する際はソーラー照明とすること。） ・キッチンカーの呼び込みを検討している。
2025/6/10	熊野・那智ガイドの会	・レインコートに着替えるための屋根付きスペースとトイレが必要。 ・二輪車駐輪場の設置を希望（現在は普通車スペースを使用）。 ・自転車利用者が一定数いるが多くない。 ・駐車場入口に空き状況表示があると良い。

		・歩行者通路の明示による安全確保が必要。 ・女子トイレは混雑時に列ができるため、通行に配慮した配置が良い。 ・トイレは奥まった場所ではなく、分かりやすい位置に設置を希望。 ・障害者用駐車場はトイレまでの距離を短くし、屋根付きが望ましい。 ・「大門坂駐車場」の記名板・案内板は見やすい位置に設置を希望。 ・路線バスの待機や子どもたちの集合に屋根付きスペースがほしい。 ・普通車の出入口は分離または集約し、動線を整理すべきである。 ・土砂災害啓発センターはバスで訪れる人が年間で一定数いるため、バス駐車場からの動線を短くするか、寄り付きスペースを設けてほしい。 (以下、6/11 追加受領) ・観光案内所閉館時に備え、案内板・リーフレット設置コーナーの整備。 ・ベンチの設置は必要と考えるが、大人数の集合時に邪魔とならない位置に設置すること。 ・雨天時の吹き込み対策として、大屋根に部分的な壁・腰壁の設置を希望。(風向きは北西である。) ・「那智参詣曼荼羅」が視認できる位置にあると良い。
2025/6/20	土砂災害啓発センター	・職員用 14 台、公用車用 4 台の計 18 台分の駐車スペースが必要。 ・利用者向けにバス・マイクロバスの乗降スペースを確保してほしい。 ・駐車場が有料化された場合、啓発センター利用者は無料としたい。 ・点字ブロック・カーポート等の既存設備を現状のまま活用したい。 ・北東側緑地帯に砂防堰堤の説明スペースを整備してほしい。 ・ポケモンマンホール、なでしこ石碑は現地に残してほしい。
2025/6/23	熊野御坊南海バス	・バス停を駐車場内に設置することは、おおむね問題なし。 ・バス出入口の間口長さは、運転手に確認の上、検討が必要。 ・バス乗降場は 1 ヶ所が望ましい。(歩行者動線の安全確保のため) ・バス停の置き場スペースを確保してほしい。 ・バス乗降場と普通車駐車場の出入口は分け、ポストコーン等で区切ることが望ましい。

3-2.計画方針の検討と設定

(1) 基本方針の設定

現況・敷地分析及び敷地条件の整理結果をもとに、対象敷地の整備における基本方針を設定した。

以下の整備方針に基づき、基本計画の検討を行う。

【全体】

観光名所への玄関口として、多くの人が訪れることを前提に、利便性・安全性に配慮した快適で居心地のよい空間にします。

【利便性の向上】

繁忙期において発生しているトイレの待機列や交通渋滞の状況を改善することを目的とし、駐車場の機能および役割の最適化を図ることで、より利便性の高い駐車場とします。

【色彩・デザイン性に配慮】

世界遺産の観光地にふさわしい駐車場を目指して、素材やデザイン性のほか、景観にも配慮した計画とします。施設や舗装等は、周辺と調和するようなデザイン・色彩を基本とします。

【多様な立場の人の利用を想定したデザイン】

各施設の整備に当たっては、観光で訪れる外国人や地域住民も利用しやすい様、多言語化に対応した看板の設置等、ユニバーサルデザイン化を図ります。

【施設のバリアフリー化】

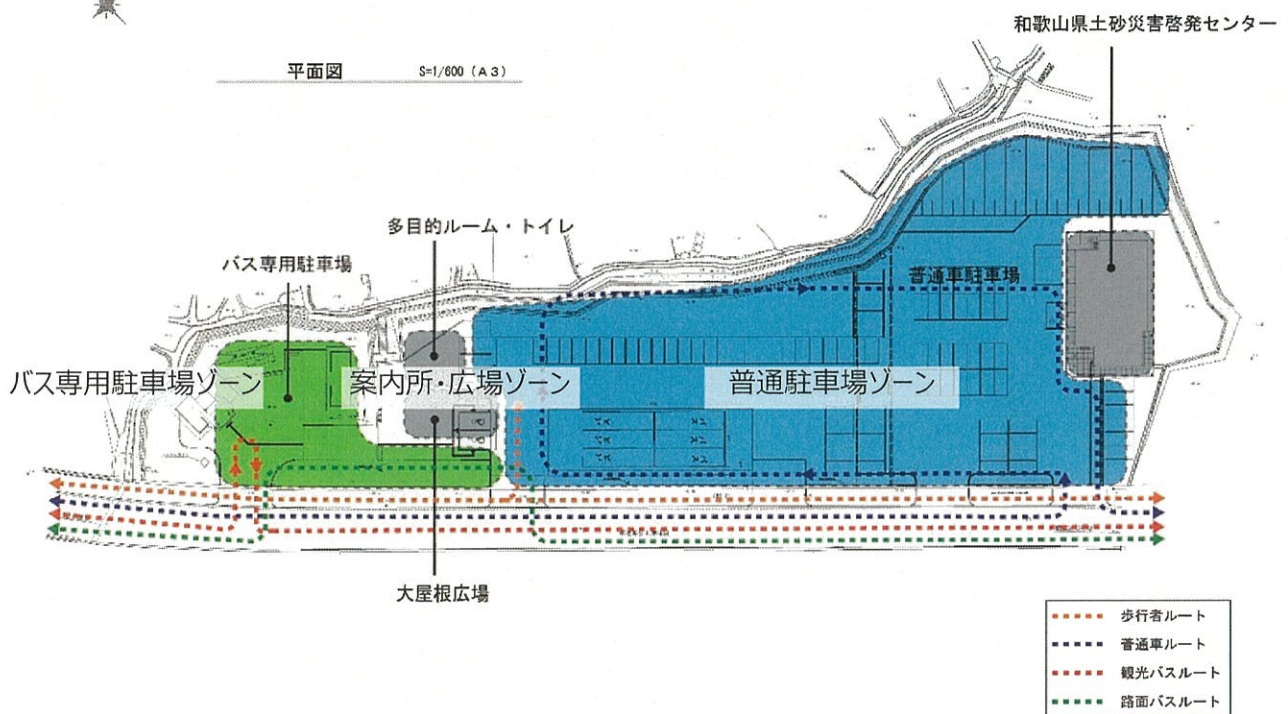
車椅子利用者用駐車施設・バリアフリースイートの設置や、高齢者や車いす利用者等がアクセスしやすい動線の整備を行います。

3-3.ゾーニングの検討と設定

(1) ゾーニング方針

- 敷地の北西部にバス専用駐車場、南東部に普通車駐車場を配置することで、バスと普通車の動線が交差することなく、安全性の向上を図るとともに、効率的なレイアウトにより駐車台数の最大化を実現する。
- 普通車の出入口は1箇所、観光バスおよび路面バスはそれぞれ入口と出口を1箇所ずつ設けることで動線を整理し、より多くの駐車スペースを確保する。
- トイレ・観光案内所の前面に大屋根広場を設けることで、駐車場利用者や観光・路面バス利用者が休憩・憩いの場として利用できる半屋外空間を創出する。
- トイレ、観光案内所、広場等を中心に配置することで、バス専用駐車場および普通車駐車場のいずれからもアクセスしやすいレイアウトとし、利用者の利便性を高める。
- 路面バスの停留所を大屋根広場内に取り込むことで、広場をバス待ちの利用者の待合スペースとして活用する。

【ゾーニング図】



(2) 各ゾーンの考え方

ゾーン名称	考え方
普通駐車場ゾーン	・ 安全性、利便性を確保したうえで駐車台数の最大化を図る。 ・ 場内の安全確保のため、一方通行を基本とした車両動線とし、出入口は1箇所とする。
バス専用駐車場ゾーン	・ 安全性、利便性を確保したうえで駐車台数の最大化を図る。 ・ 場内の安全確保のため、一方通行を基本とした車両動線とし、入口と出口をそれぞれ分けて1箇所ずつ配置する。 ・ 基本的に普通自動車の進入はできないバス専用道とする。
案内所・広場ゾーン	・ トイレ、観光案内所、多目的ルームをひとつの建物として集約し、効率化、経済性を図る。 ・ 広場を建築と一体感のある大屋根で囲い、夏場の日差しや雨天から守る大きな半屋外空間とする。 ・ 広場空間にはテーブルやベンチを配置し、イベントや休憩、憩いの場として利用できる空間とする。

3-4.施設配置の検討と設定

(1) 各ゾーンに導入する施設の選定

本計画地は、那智大社や那智の滝などの世界遺産を含む観光名所への玄関口に位置しており、県内外から訪れる観光客の利用頻度が高い地域である。そのため、観光案内所やガイドの会等の関係者の意見を重視し、導入施設の検討を行う必要がある。

また、世界遺産の観光地にふさわしい魅力の向上及び利便性の向上を図るため、関係者の意向を踏まえた施設選定を行うものである。

駐車場に関しては、現況地形を最大限に活用しながら施設の適切な配置を行うことで、駐車台数の最大化を図る。また、交差が少なく安全でわかりやすい動線確保のため、路面表示、誘導サイン等の充溢を図る。

接続する県道 46 号にはバス停が位置しており、乗降時の安全性確保及び交通渋滞の回避を図るため、計画区域内へのバス停の移設を行い、安全性及び利便性の向上を図る。

トイレ及び観光案内所については、既存施設の利用状況や課題を踏まえ、適切な規模の算定を行うとともに、新たな機能の追加について検討する。また、観光客及び地域住民の休憩・憩いの場を提供することを目的として、広場空間の創出を図る。

以下、各ゾーンの導入施設の項目については下表に示す。

【導入施設】

ゾーン名称	導入施設
普通駐車場ゾーン	・ 普通車駐車場（身障者用駐車場を含む） ・ 二輪駐輪場
バス専用駐車場ゾーン	・ バス駐車場
案内所・広場ゾーン	・ 観光案内所 ・ 多目的ルーム ・ トイレ（男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレを含む） ・ 広場 ・ バス停、待合スペース

(2) 普通車駐車場・二輪駐輪場

1) 整備方針

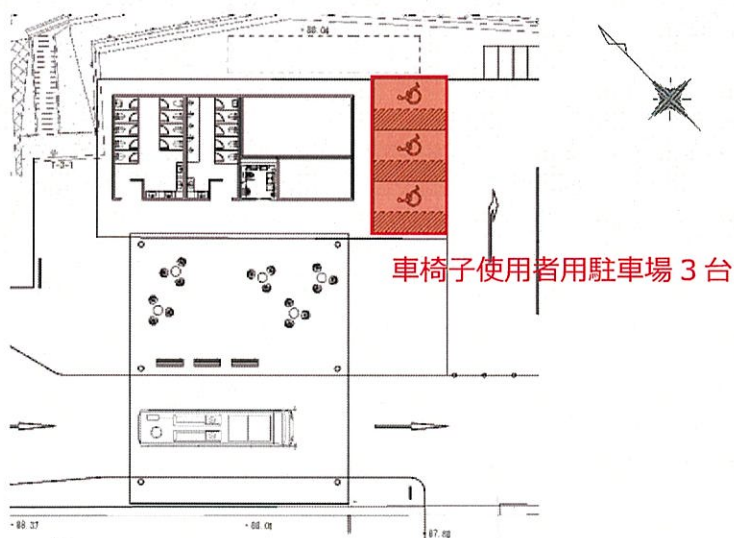
駐車場は、できるだけ多くの駐車マスを確保することを基本とし、敷地内スペースを有効活用することで、効率的な配置計画・動線計画とする。身体の不自由な方への対応として、トイレ等にアクセスしやすい場所へ車椅子使用者用駐車場を確保する。

また、バイクや自転車の来訪者も想定し、二輪駐輪場を確保する。

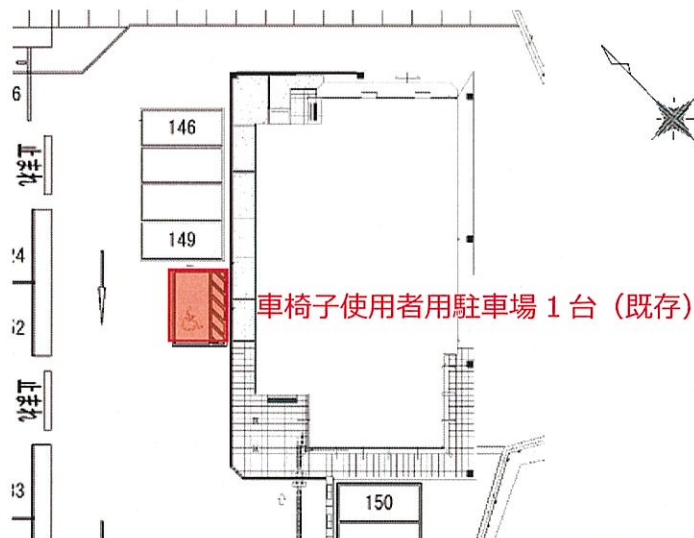
【大門坂駐車場における駐車場台数】

車 種	駐車マス寸法	既存駐車台数	新設駐車台数	増減台数
普通車	5.0m×2.5m	91 台	155 台	+64 台
車椅子使用者用	5.0m×3.5m	3 台	4 台	+1 台
二輪車	2.3m×1.0m	0 台	10 台	+10 台

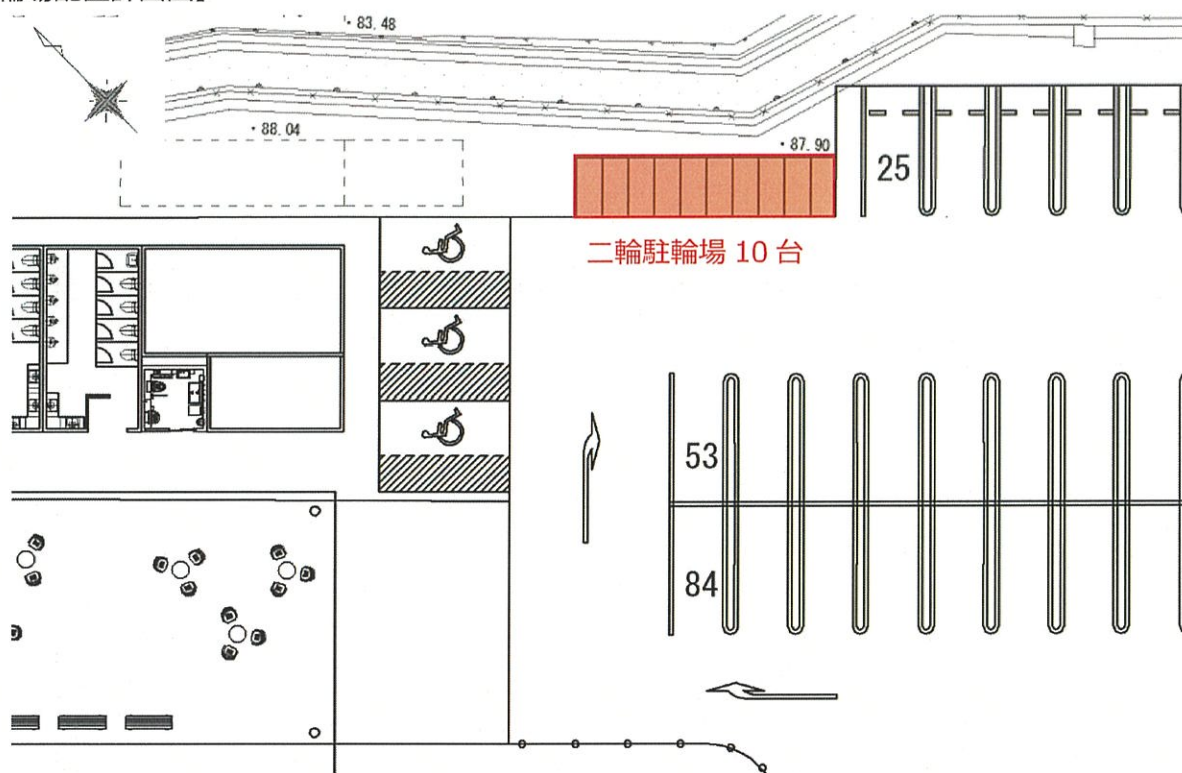
【車椅子使用者用駐車場配置計画図（広場側）】



【車椅子使用者用駐車場配置計画図（土砂災害啓発センター側）】



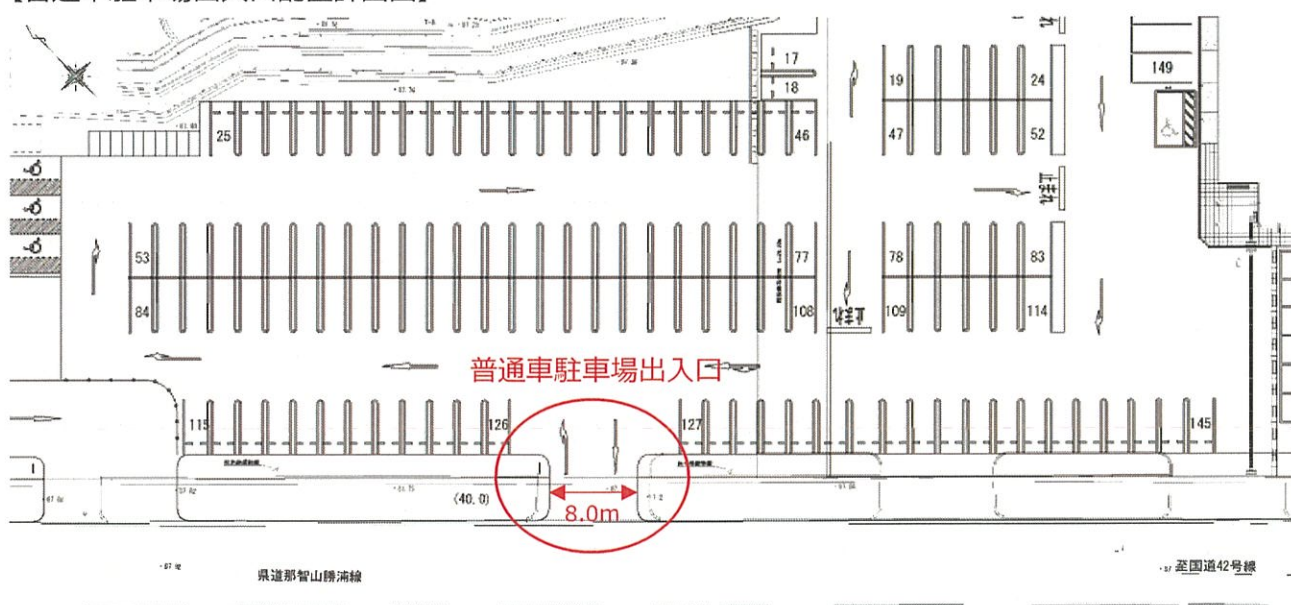
【駐輪場配置計画図】



2) 出入口

普通車駐車場の出入口は、既存の3箇所から1箇所に集約し、動線の効率化および安全の確保を図る。
乗入部の幅員は、和歌山県との協議結果をもとに、8.0mとする。

【普通車駐車場出入口配置計画図】



(3) バス専用駐車場

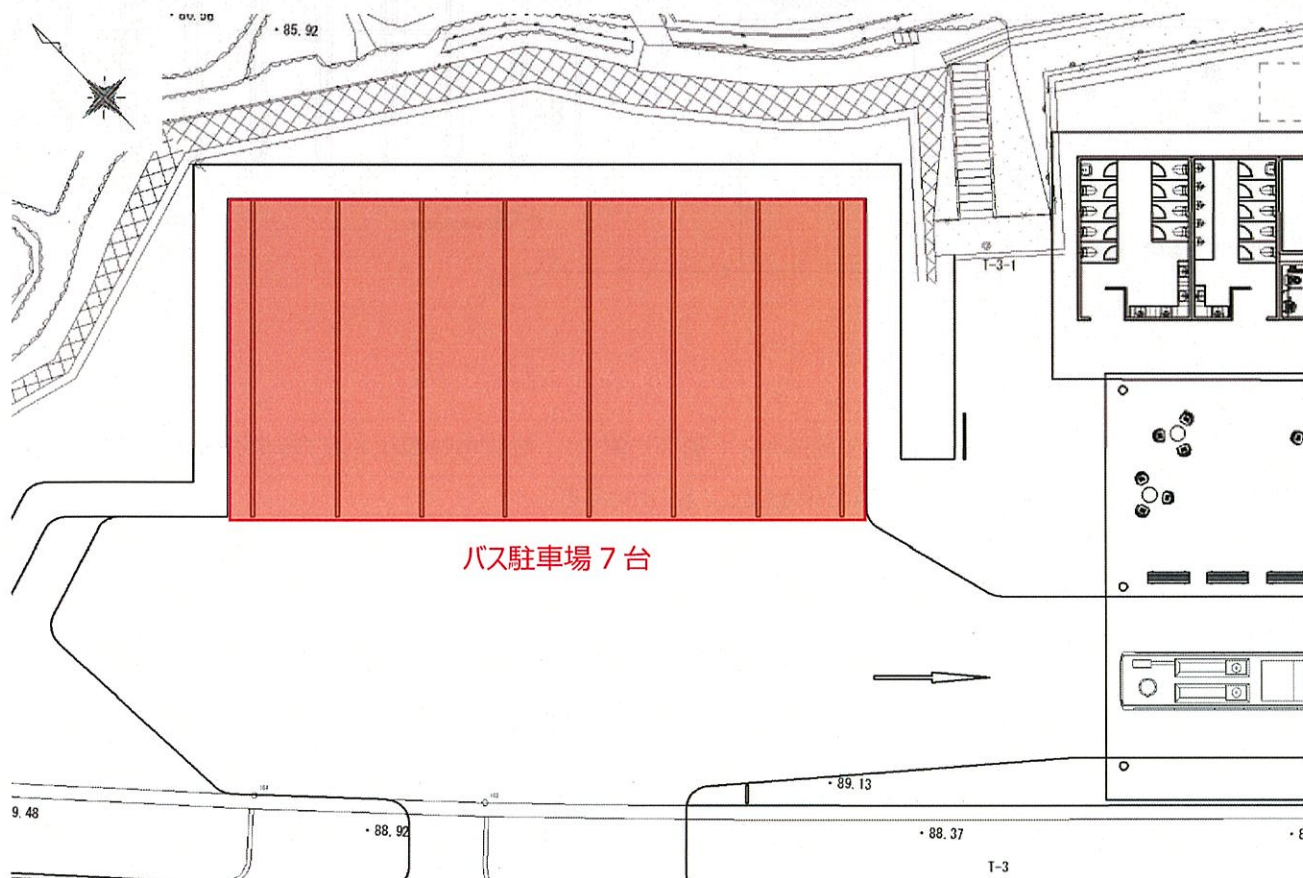
1) 整備方針

バス駐車場は、普通車駐車場と分けて配置し、一般車等の進入を制限することで、安全性及び効率性の向上を図る。

【大門坂駐車場におけるバス駐車場台数】

車 種	駐車マス寸法	既存駐車台数	新設駐車台数	増減台数
バス	13.5m×3.5m	6 台	7 台	+1 台

【バス駐車場配置計画図】

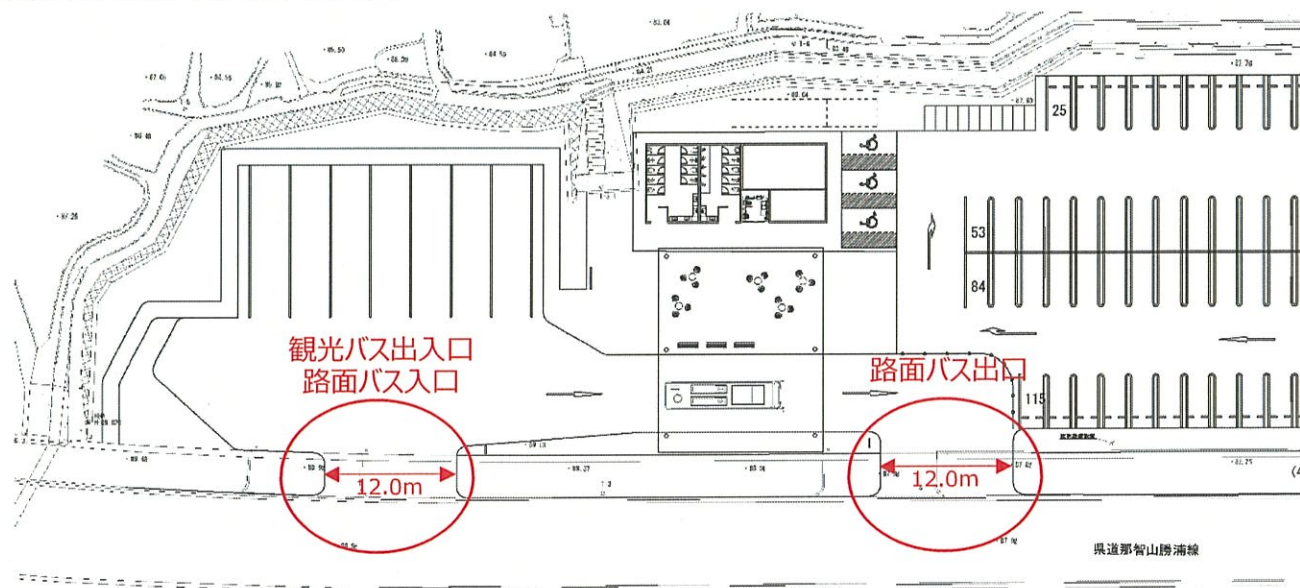


2) 出入口

観光バス・バス路面バスの出入口は、観光バス出入口および路面バス入口と路面バス出口とを分けてそれぞれ1箇所とし、動線の効率化および安全の確保を図る。

乗入部の幅員は、和歌山県との協議結果をもとに、12.0mとする。

【普通車駐車場出入口配置計画図】

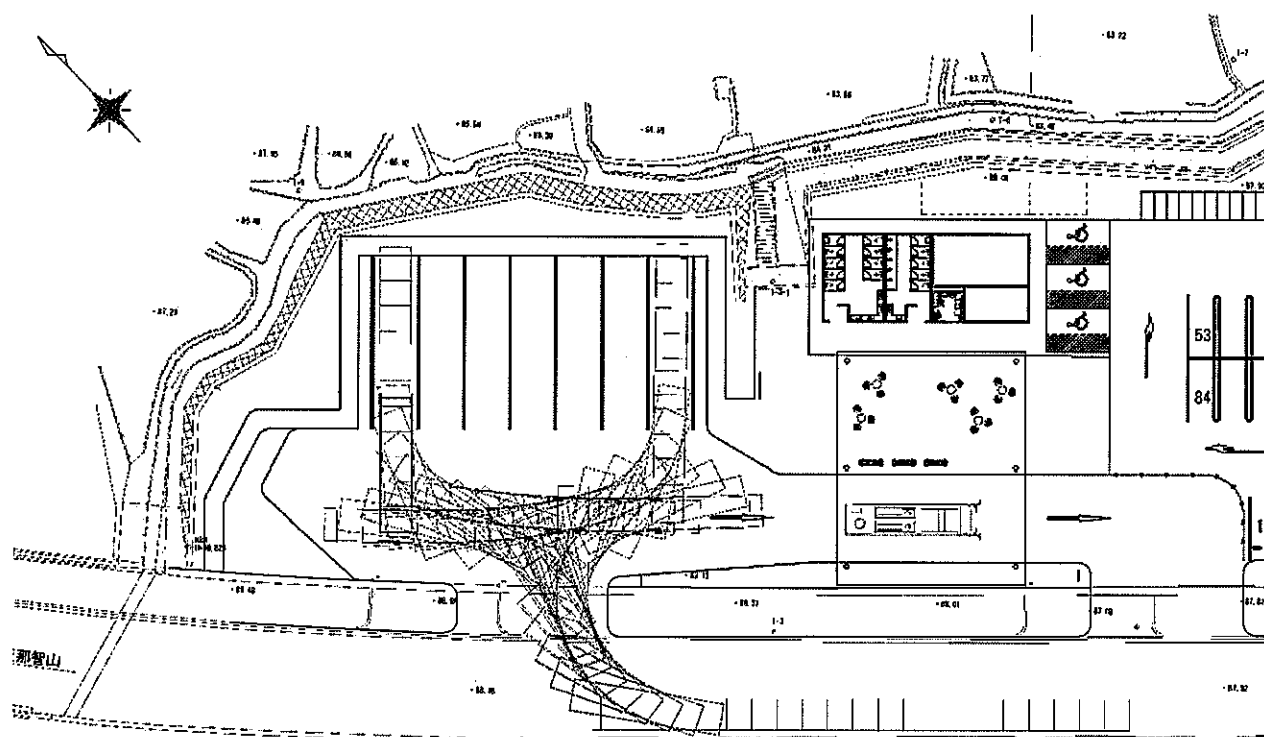


3) 軌跡検討

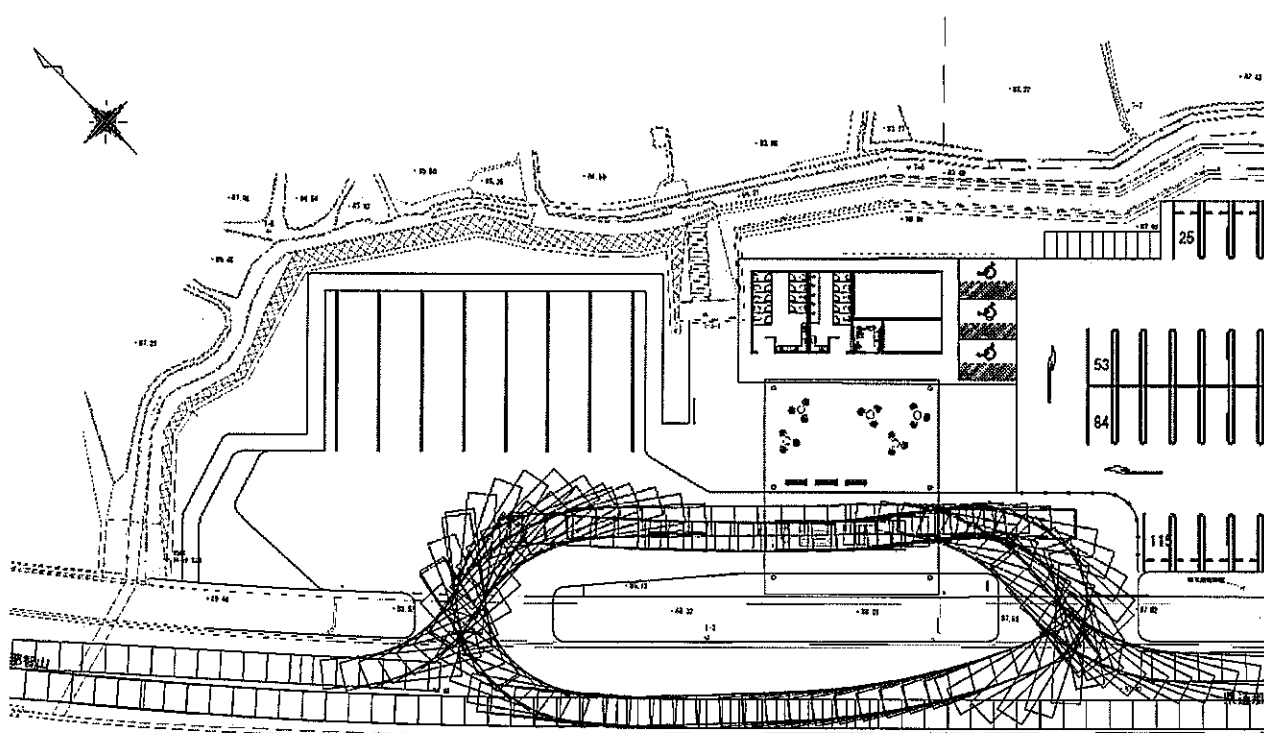
バス駐車場及びバス停留所、観光・路面バス用出入口について、走行シミュレーションによる軌跡の検討を行い、走行可能であることを確認した。

軌跡検討結果を次頁に示す。

【観光バス軌跡検討図】



【路面バス軌跡検討図】



(4) 観光案内所・多目的ルーム

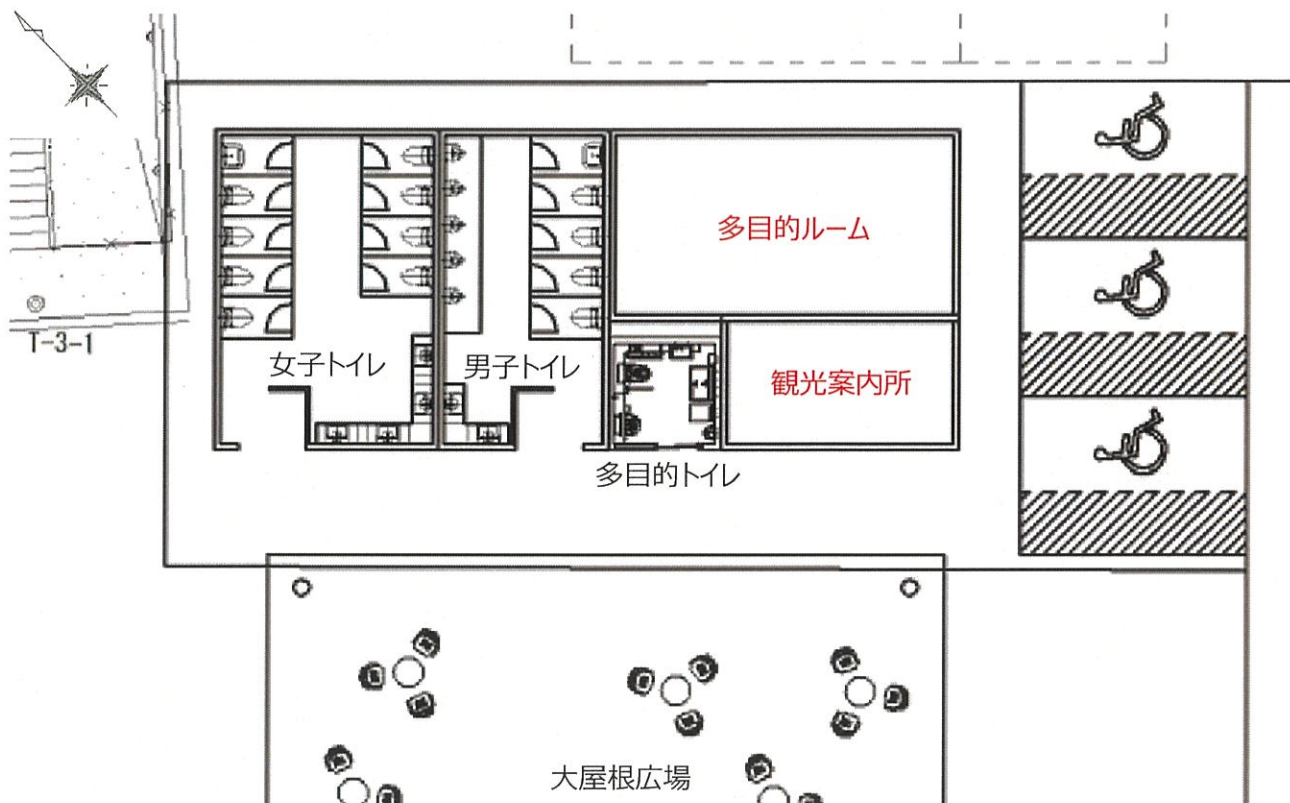
1) 整備方針

観光案内所は既存施設の規模を維持したうえで、駐車場内の各箇所からもアクセスしやすく、分かりやすい場所に設置する。また、休憩や着替え、災害時の一時避難場所として利用することのできる多目的ルームを設置する。

観光案内所・多目的ルーム及びトイレはひとつの建物として集約する。

建築意匠は、周辺と調和するようなデザイン性に優れたものとする。

【観光案内所・多目的ルーム配置計画図】



2) 整備イメージ

【多目的ルームイメージ（和歌山市西コミュニティセンター）】



出典：和歌山市西コミュニティセンターＨＰ

(5) トイレ

1) 整備方針

現況調査の結果、女子便所を中心に待機列が発生している状況にあるため、便器の必要穴数算定による適正化を行うことで、利便性の向上を図る。

明るく開放的で、環境面やデザイン性にも配慮した設計とし、誰にでも使いやすいユニバーサルデザインとする。また、駐車場内の各箇所からもアクセスしやすく、分かりやすい場所に設置する。

2) 必要穴数の算定

NEXCOの「設計要領 第六集 建築施設編 第1編 休憩用建築施設」によるサービスエリア及びパーキングエリアに設けるトイレ設置基準を活用して、本計画地における便器必要穴数を以下の通り算定した。

【便器必要穴数】

便器の種類	必要穴数
男子小便器	4穴
男子大便器	3穴
女子便器	8穴

算定の過程を次頁に示す。

【便器必要穴数の算定】

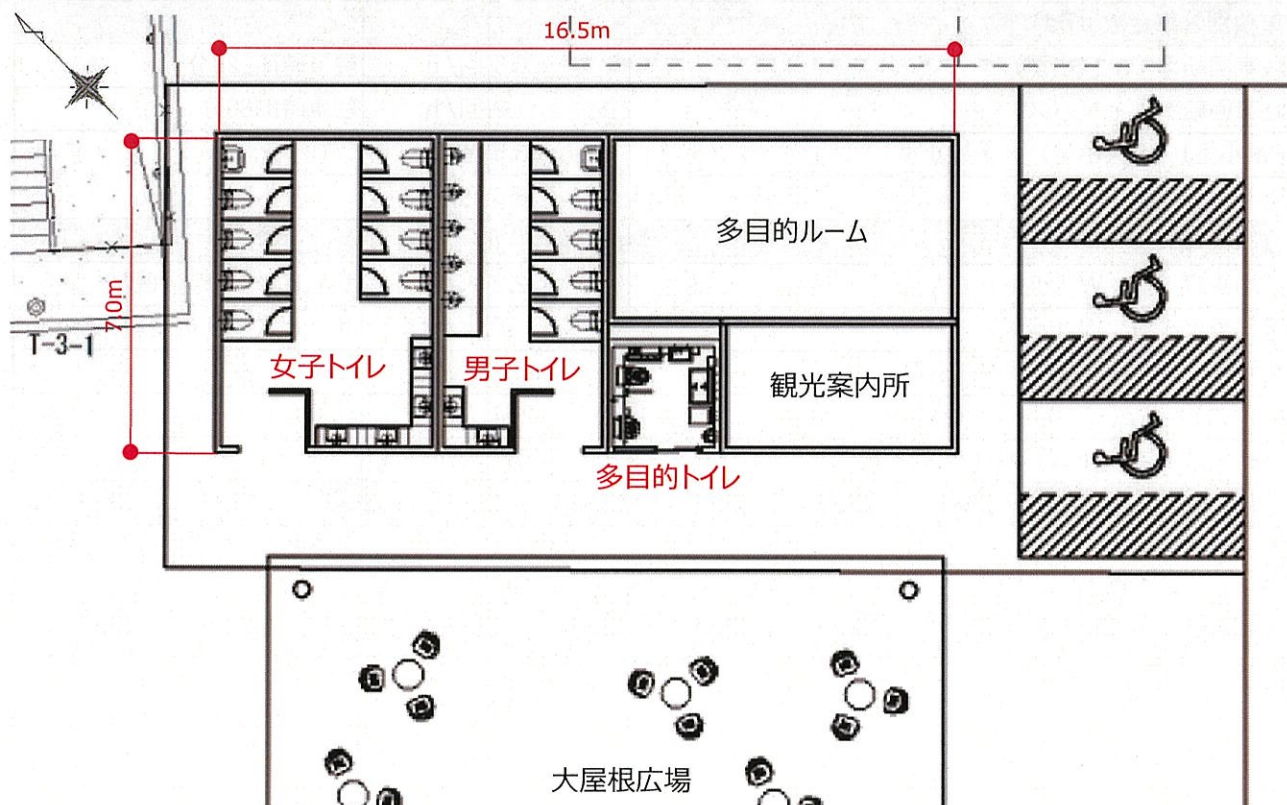
駐車ます数 (P)			
P (小型)	167	台	
P (バス)	7	台	
車種別駐車台数 (Pa)			
駐車回転率: r (小型)	0.5	回/h	駐車時間120分
駐車回転率: r (バス)	1.2	回/h	駐車時間60分
Pa(小型) = P (小型) × r (小型)	83.5	台/h	
Pa(バス) = P (バス) × r (バス)	8.4	台/h	
立寄人数 (N)			
平均乗車人員: W (小型)	2.2	人/台	サービスエリア (観光部)
平均乗車人員: W (バス)	35	人/台	サービスエリア (観光部)
N(小型) = Pa(小型) × W (小型)	183.7	人/h	
N(バス) = Pa(バス) × W (バス)	294	人/h	
立寄人数 N = N(小型) + N(バス)	477.7	人/h	
トイレ利用人数 (NL)			
トイレ利用率: u	72.0%		サービスエリア (観光部)
トイレ利用人数 NL = u × N	343.9	人/h	
性別利用人数 (NLm、NLf)			
男子性別比率: Dm	54.0%		サービスエリア (観光部)
女子性別比率: Df	46.0%		サービスエリア (観光部)
男子ピーク率: Pm	2		サービスエリア (観光部)
女子ピーク率: Pf	2		サービスエリア (観光部)
男子利用人数 NLm = NL × Dm × Pm	371.5	人/h	
女子利用人数 NLf = NL × Df × Pf	316.4	人/h	
便器数算出			
小便器回転率: Cm	95	人/h	
女子便器回転率: Cf	40	人/h	
男子洗面器回転率: Sm	360	人/h	
女子洗面器回転率: Sf	215	人/h	
男小 Vm1 = 0.8 (小便器利用率) × NLm / Cm	3.1	器	
男大 Vm2 = Vm1 × 0.75 (大便器係数)	2.3	器	
女子 Vf = NLf / Cf	7.9	器	
男子洗面器 NLm / Sm	1.0	器	
女子洗面器 NLf / Sf	1.5	器	
男子便器 (小)	4	器	
男子便器 (大)	3	器	
女子便器	8	器	
男子洗面器	2	器	
女子洗面器	2	器	

※赤字は NEXCO の基準から変更した値

3) 配置計画

トイレの配置計画図を以下に示す。

【トイレ配置計画図】



4) 整備イメージ

【トイレイメージ（桂川 PA）】



出典：NEXCO 西日本 HP

【トイレイメージ（南池袋公園）】



出典：久間建築設計事務所 HP

(6) 大屋根広場

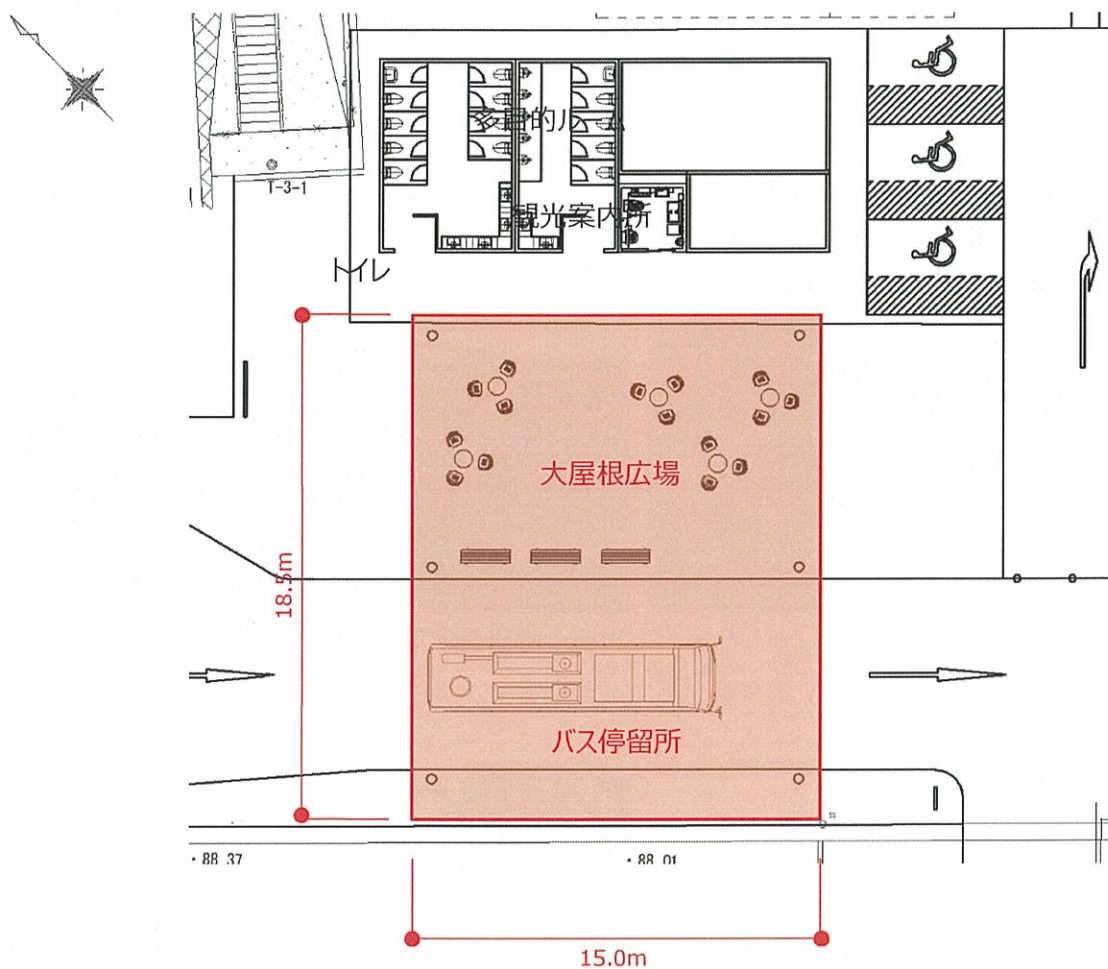
1) 整備方針

約 270 m²の大屋根を確保し、可動式テーブルベンチ等を設けることで、休憩、雨宿り、イベント、災害時の一時避難場所等、多様な用途で利用できる空間を創出する。

現在県道 46 号にあるバス停（熊野御坊南海バス「大門坂」バス停）を、大屋根広場内に移動することで、乗降時の安全性確保、交通渋滞の回避を図る。

建築意匠は、観光案内所・トイレと連続するデザインとし、周辺と調和した色彩・素材等を基本とする。

【大屋根広場配置計画図】



2) 整備イメージ

【大屋根広場イメージ（和歌山市駅前広場）】



出典：空間構想一級建築士事務所 H P

【大屋根広場イメージ（道の駅まえばし赤城）】



出典：前橋新聞

【大屋根広場イメージ（湯河原駅前広場）】



出典：隈研吾建築都市設計事務所 H P

【可動式テーブルベンチ（大井競馬場）】

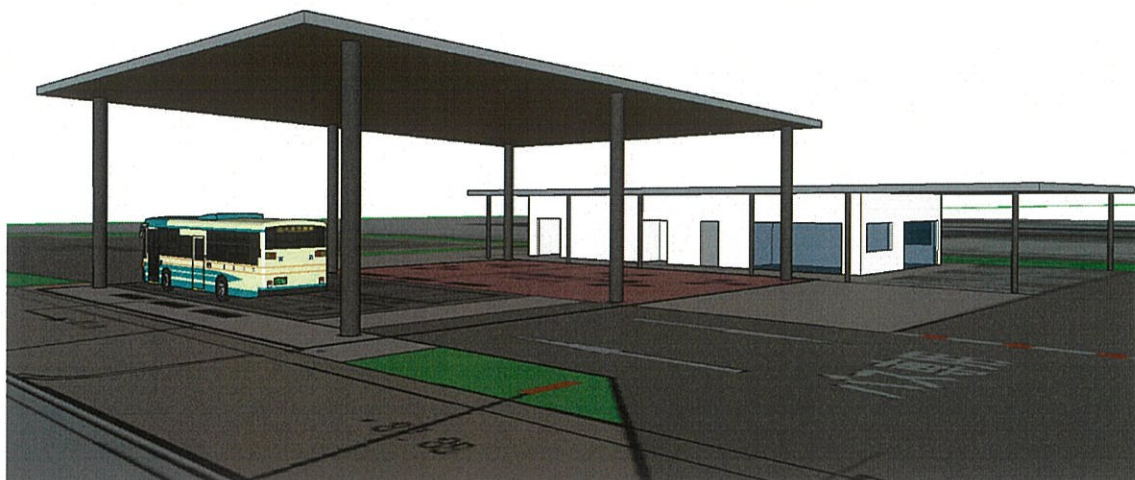


出典：コトブキ



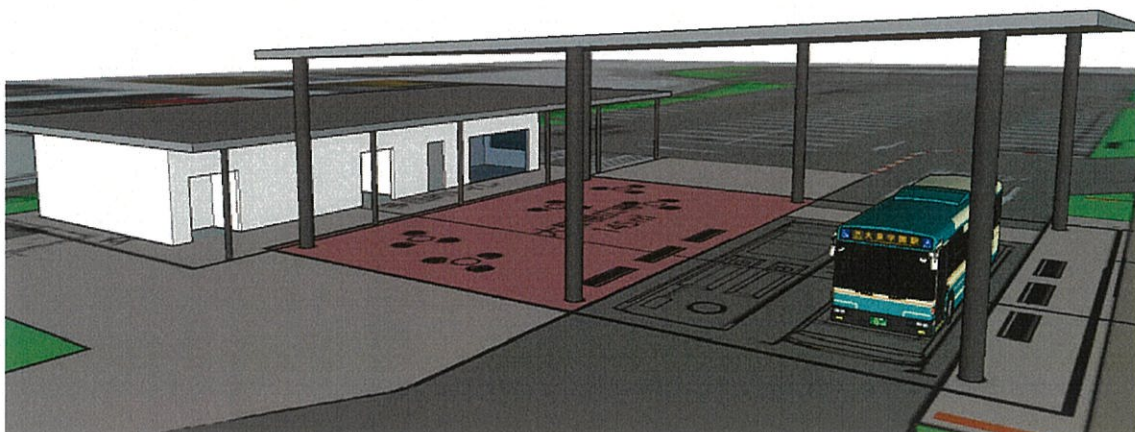
【建築イメージ（3Dモデル）】

SketchUp



【建築イメージ（3Dモデル）】

SketchUp



4. 基本計画図

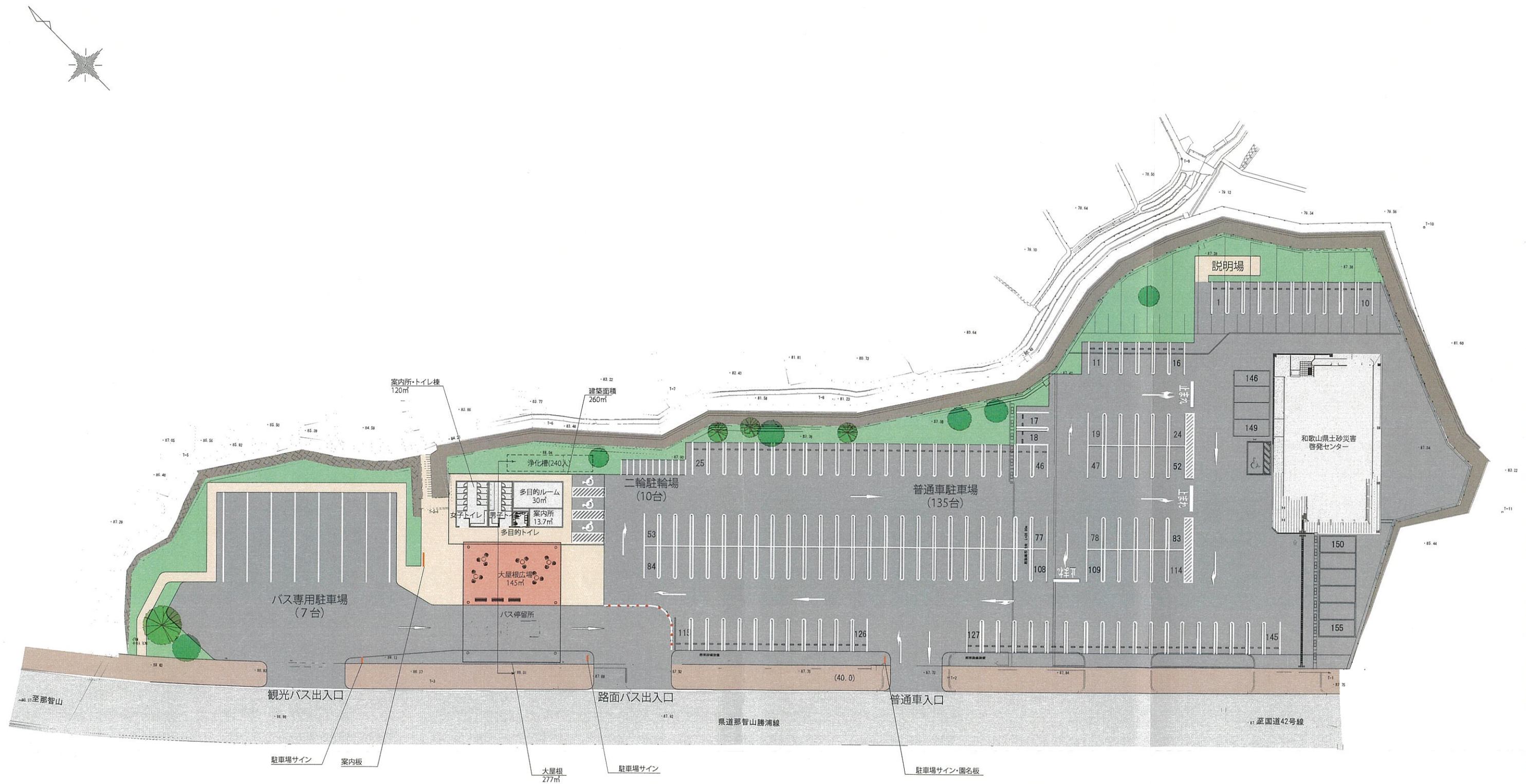
4-1.基本計画図

【設計概要】

名 称	面 積	主要施設等
普通駐車場	約 4,500 m ²	普通車駐車場（155 台）、身障者用駐車場（4 台）、 二輪駐輪場（10 台）
バス専用駐車場	約 800 m ²	バス駐車場（7 台）
案内所・広場	約 800 m ²	男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ、観光案内所、多目的 的ルーム、可動式テーブルベンチ、ベンチ

【計画平面図】

計画平面図を次頁に示す。



O

O

4-2.イメージパース



O

O